

CLUSTERPRO® SingleServerSafe™ **for Windows Ver1.0**

簡易インストール手順書

2005.09.13
第3版



改版履歴

版数	改版日付	内 容
1	2005/02/02	第1版
2	2005/05/30	以下の部分の記述を追加・修正 Ver1.03に対応 1.1 インストール前に を更新 5.4 監視の設定(ディスク監視)を追加
3	2005/09/13	4.1.3 Internet Explorerの設定 の信頼済みサイトの設定のチェックボックス について注意書きを追加

本マニュアルは、「CLUSTERPRO SingleServerSafe for Windows Ver1.0」に対応しています。

CLUSTERPRO®は日本電気株式会社の登録商標です。

SingleServerSafe™はNECシステムテクノロジー株式会社の商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Javaは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.の登録商標または商標です。

Oracleは、米国Oracle Corporationの登録商標です。

その他のシステム名、社名、製品名等はそれぞれの会社の登録商標または商標です。

最新の動作確認情報、システム構築ガイド、アップデートなどは以下のURLに掲載されています。

システム構築前に最新版をお取り寄せください。

NECインターネット内でのご利用

<http://soreike.wsd.mt.nec.co.jp/>

[クラスタシステム]→[技術情報]→[CLUSTERPROインフォメーション]

NECインターネット外でのご利用

<http://www.ace.comp.nec.co.jp/CLUSTERPRO/>

[ダウンロード]→[Windowsに関するもの]→[ツール]

はじめに

『CLUSTERPRO SingleServerSafe for Windows Ver1.0 簡易導入手順書』は、システムの構築を検討している営業、及びユーザサポートを行うシステムエンジニアを対象に記述しています。

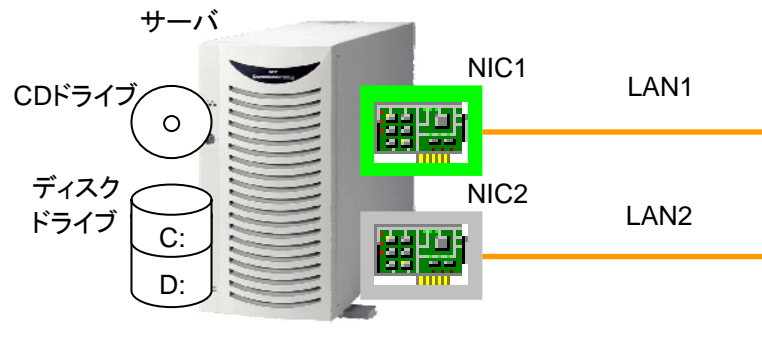
本書は、CLUSTERPRO SingleServerSafe for Windows Ver1.0(以降CLUSTERPRO SSSと記述する場合あり)のインストールや監視の設定についてご説明します。

はじめに	4
1 サーバの構成	7
1.1 インストールの前に	7
1.2 本書でインストールするもの	7
2 LANボードの二重化	8
2.1 LANボードの二重化の設定	8
3 CLUSTERPRO SingleServerSafe のインストール	17
3.1 CLUSTERPRO SingleServerSafeインストール画面	17
3.2 インストール開始画面	18
3.3 インストールフォルダ指定画面	19
3.4 マネージャサービスのポート番号入力画面	21
3.5 Administratorのユーザ名・パスワード入力画面	22
3.6 入力内容の確認画面	23
3.7 インストール完了画面	24
3.8 ライセンス登録画面	25
3.9 ライセンス登録方法選択画面	26
3.10 製品選択画面	27
3.11 ライセンス単位選択画面	28
3.12 ライセンスキー入力画面	29
3.13 入力ライセンス確認画面	30
3.14 ライセンス登録	31
3.15 ライセンス登録画面	32
3.16 再起動確認画面	33
3.17 スタートメニュー	34
4 CLUSTERPRO SingleServerSafeマネージャ設定	35
4.1 ブラウザの設定	35
4.1.1 インターネット接続の設定	35
4.1.2 サポートブラウザとJavaランタイム	36
4.1.3 Internet Explorerの設定	37
4.2 CLUSTERPRO SSSマネージャへの接続	40
5 監視の設定	43
5.1 CLUSTERPRO SSSマネージャマネージャ画面の表示	43
5.2 初期画面	44
5.3 監視の設定(OS監視)	45
5.3.1 監視種別の選択	45
5.3.2 OS監視	47
5.4 監視の設定(ディスク監視)	50
5.4.1 監視種別の選択	50
5.4.2 ディスク監視	51
5.5 監視の設定(IPアドレス監視)	53
5.5.1 監視種別の選択	53
5.5.2 IPアドレス監視	54
5.6 監視の設定(FTP監視)	55

5.6.1	監視種別の選択.....	55
5.6.2	アプリケーション監視	56
5.6.3	FTP監視.....	58
5.7	監視の設定(WEB監視)	59
5.7.1	監視種別の選択.....	59
5.7.2	アプリケーション監視	60
5.7.3	WEB監視	62
5.8	監視の設定をした後に.....	64
5.8.1	サーバを再起動する.....	64
5.8.2	手動で監視を開始する	65
5.9	監視を開始した後に.....	66

1 サーバの構成

1.1 インストールの前に



本書でCLUSTERPRO SSSをインストールするマシンの環境は、以下として進めます。

OS	Microsoft Windows Server 2003インストール済み
アプリケーション	IIS(WWW・FTP)インストール済み
OSのインストールドライブ	C:
ディスクドライブ	D:
CDドライブ	Q:
NIC	2枚
IPアドレス	192.168.16.98
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.16.254

1.2 本書でインストールするもの

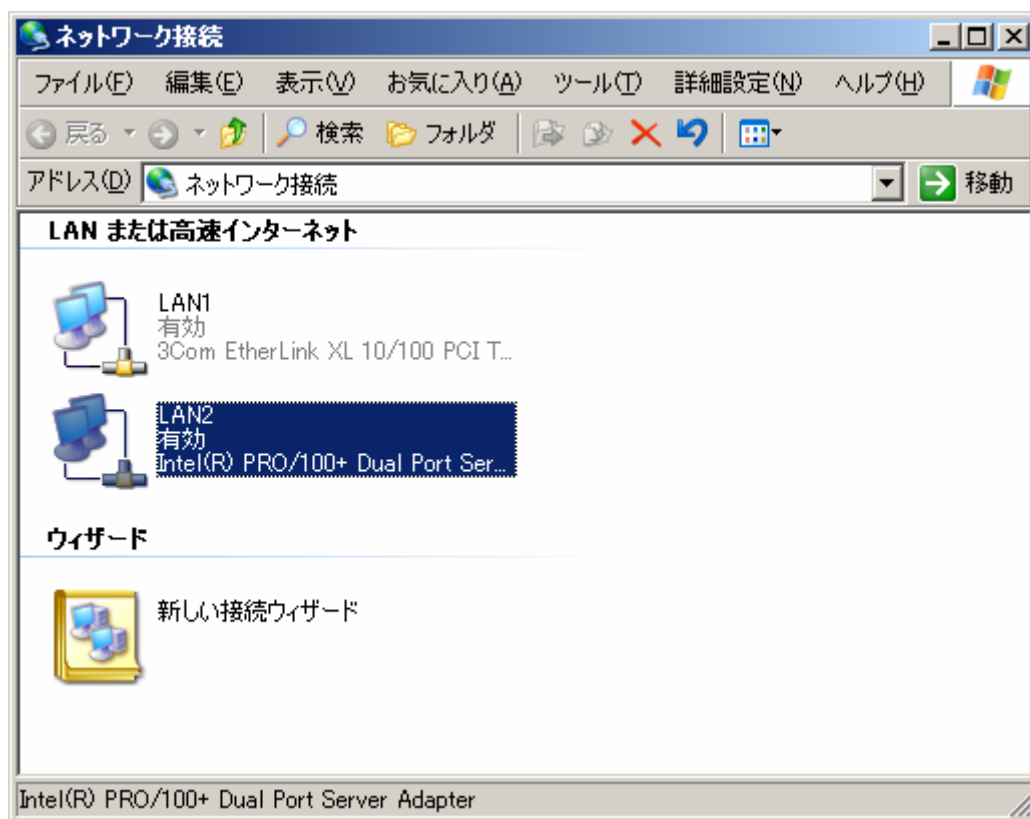
- ・ Java™2 Runtime Environment Standard Edition
- ・ CLUSTERPRO SingleServerSafe for Windows Ver1.0

2 LANボードの二重化

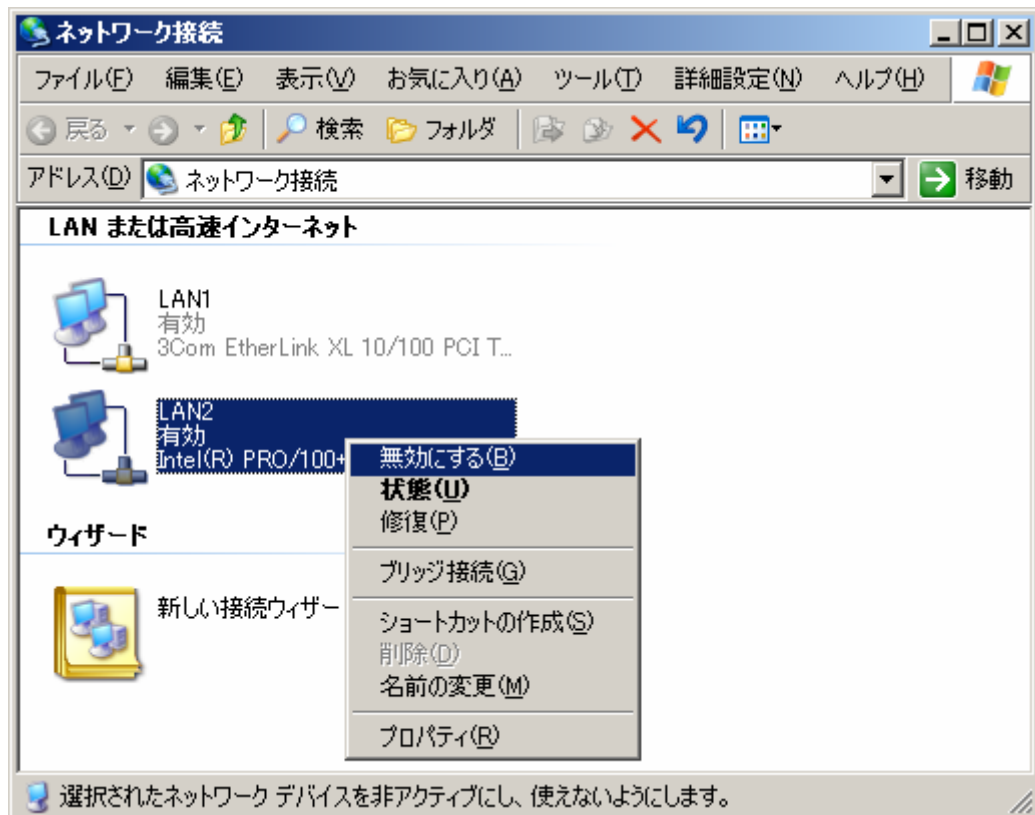
LANボードの二重化機能の設定について説明します。

2.1 LANボードの二重化の設定

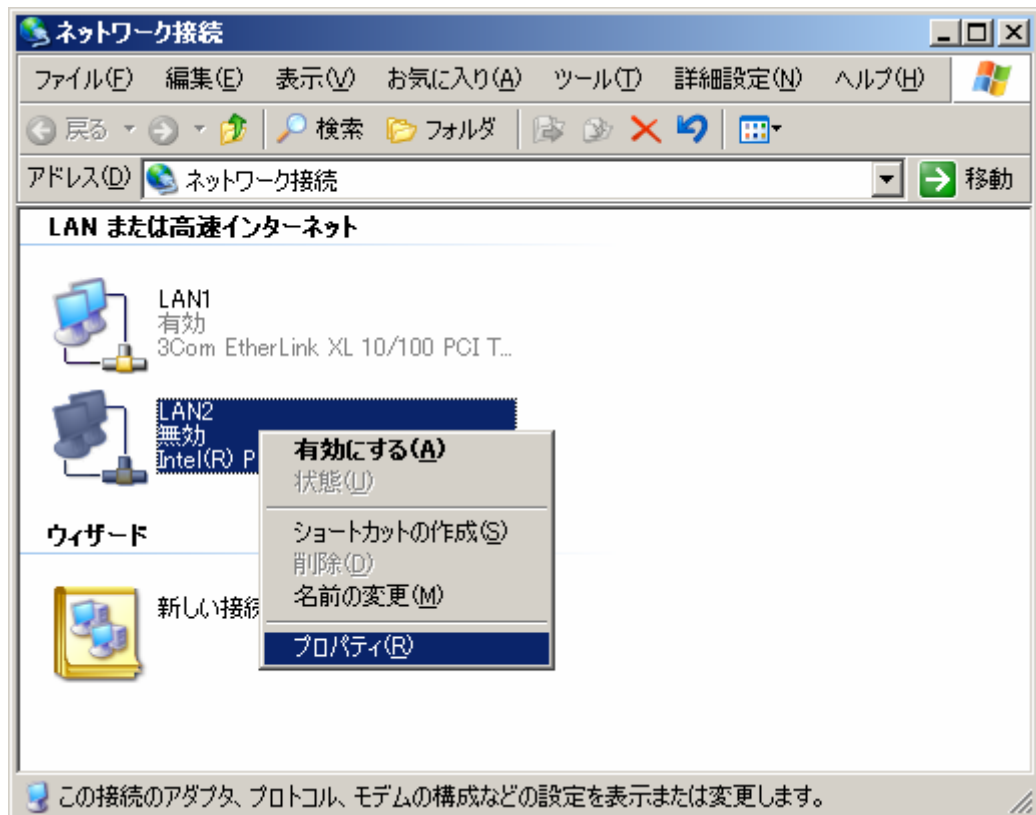
[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ネットワーク接続]をクリックしてください。ネットワーク接続のウィンドウが表示されます。LANまたは高速インターネットにそれぞれのLANボードに対応するネットワーク接続のアイコンが表示されています。



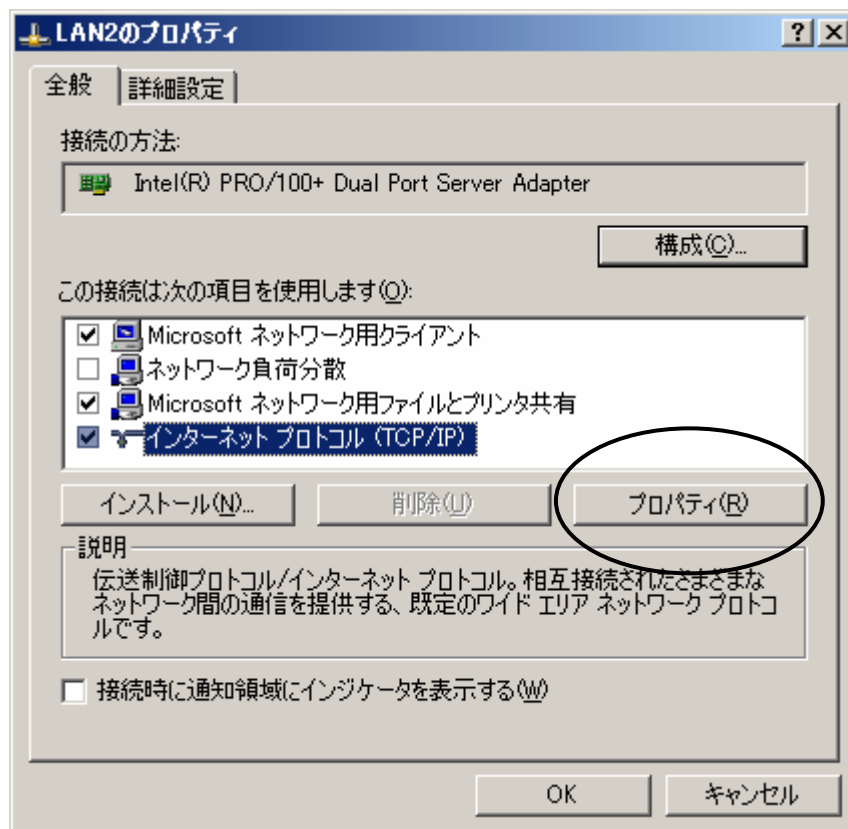
LAN2のアイコンを右クリックしてメニューを表示し、[無効にする(B)]をクリックしてください。



LAN2のアイコンを右クリックしてメニューを表示し、[プロパティ(R)]をクリックしてください。



プロパティ画面が表示されるので、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択して[プロパティ(R)]ボタンをクリックしてください。



以下の情報を入力して、[OK]ボタンをクリックしてください。

IPアドレス	192.168.16.98
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.16.254

インターネット プロトコル (TCP/IP) のプロパティ

全般

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

☐ IP アドレスを自動的に取得する(O)

☒ 次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I): 192 168 16 98

サブネット マスク(U): 255 255 255 0

デフォルト ゲートウェイ(D): 192 168 16 254

☐ DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)

☒ 次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):

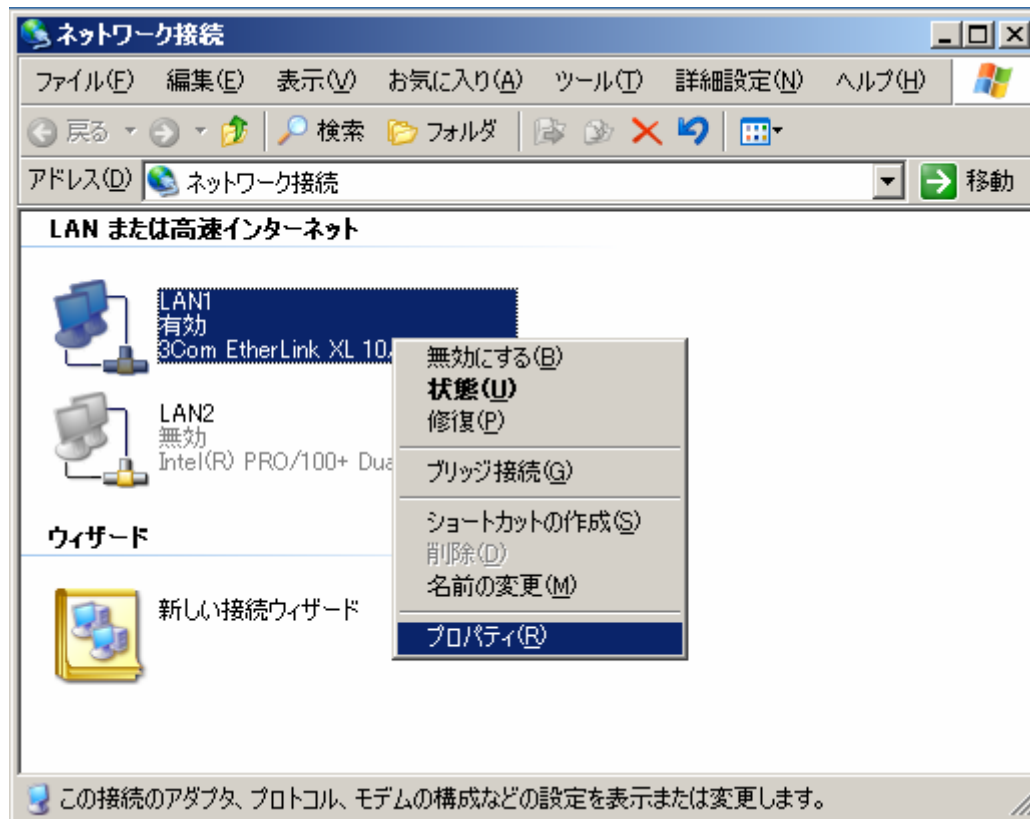
優先 DNS サーバー(P):

代替 DNS サーバー(A):

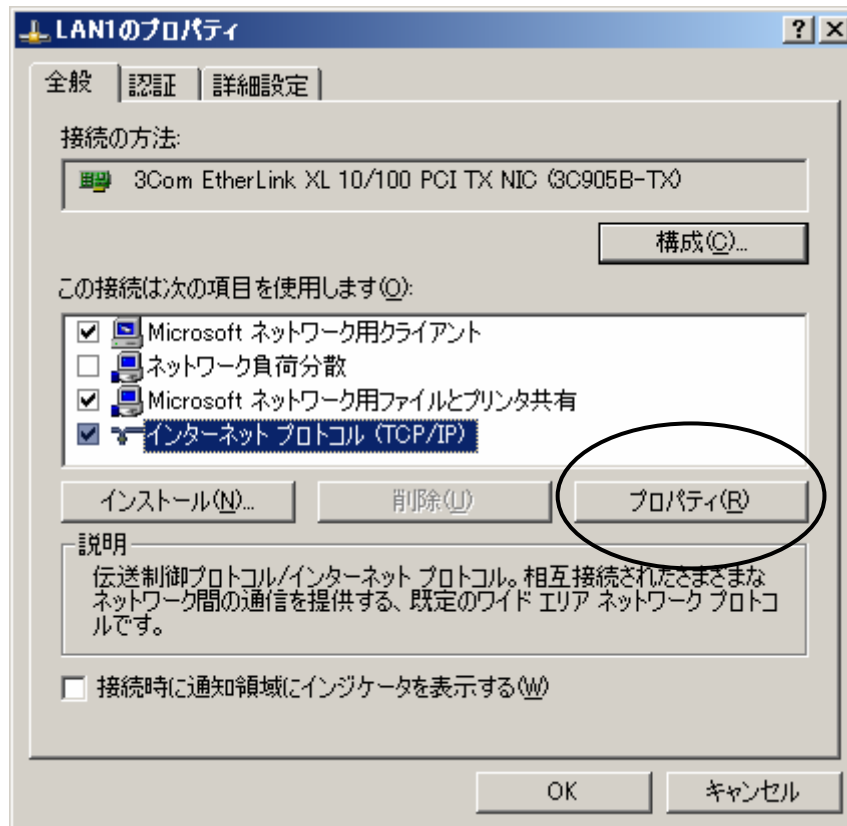
詳細設定(V)...

OK キャンセル

LAN1のアイコンを右クリックしてメニューを表示し、[プロパティ(R)]をクリックしてください。



プロパティ画面が表示されるので、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択して[プロパティ(R)]ボタンをクリックしてください。



以下の設定を入力して、[OK]ボタンをクリックしてください。

IPアドレス	192.168.16.98
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.16.254

インターネット プロトコル (TCP/IP) のプロパティ

全般

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

☐ IP アドレスを自動的に取得する(O)

☒ 次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I): 192 168 16 98

サブネット マスク(U): 255 255 255 0

デフォルト ゲートウェイ(D): 192 168 16 254

☐ DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)

☒ 次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):

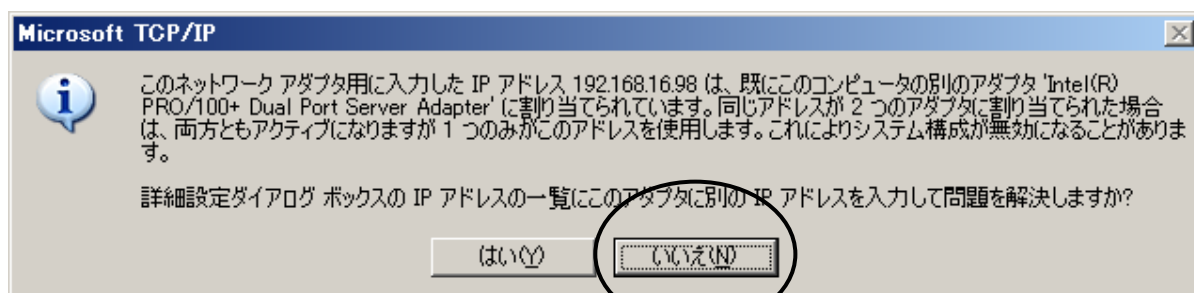
優先 DNS サーバー(P):

代替 DNS サーバー(A):

詳細設定(V)...

OK キャンセル

[OK]ボタンをクリックすると、下記の画面が表示されますので、[いいえ(N)]ボタンをクリックしてください。



設定は以上です。この後、CLUSTERPRO SSSをインストールすることにより、LANボードの二重化制御が開始されます。

3 CLUSTERPRO SingleServerSafe のインストール

CLUSTERPRO SingleServerSafeをインストールします。



CLUSTERPRO SingleServerSafeのインストールを行うと、サーバの再起動が必要になります。実行中のアプリケーションを終了させてから、インストールを行ってください。

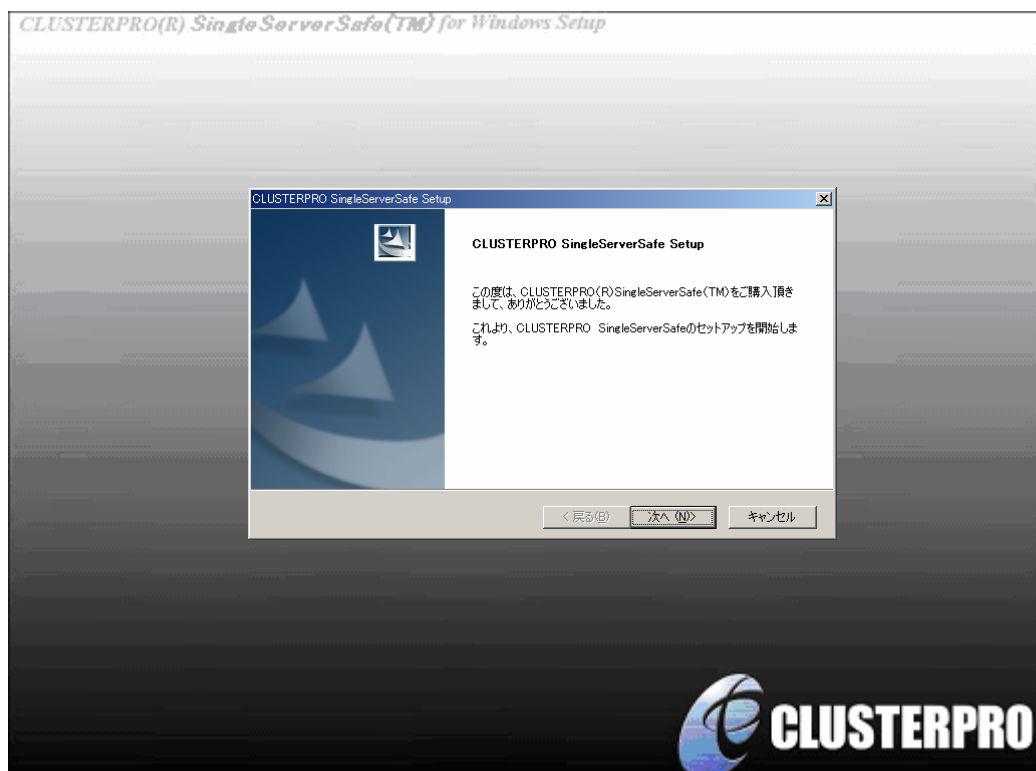
インストール作業は、Administratorで実施してください。

WindowsにAdministratorのパスワードが設定されていない場合、CLUSTERPRO SingleServerSafeをインストールすることはできません。

3.1 CLUSTERPRO SingleServerSafeインストール画面

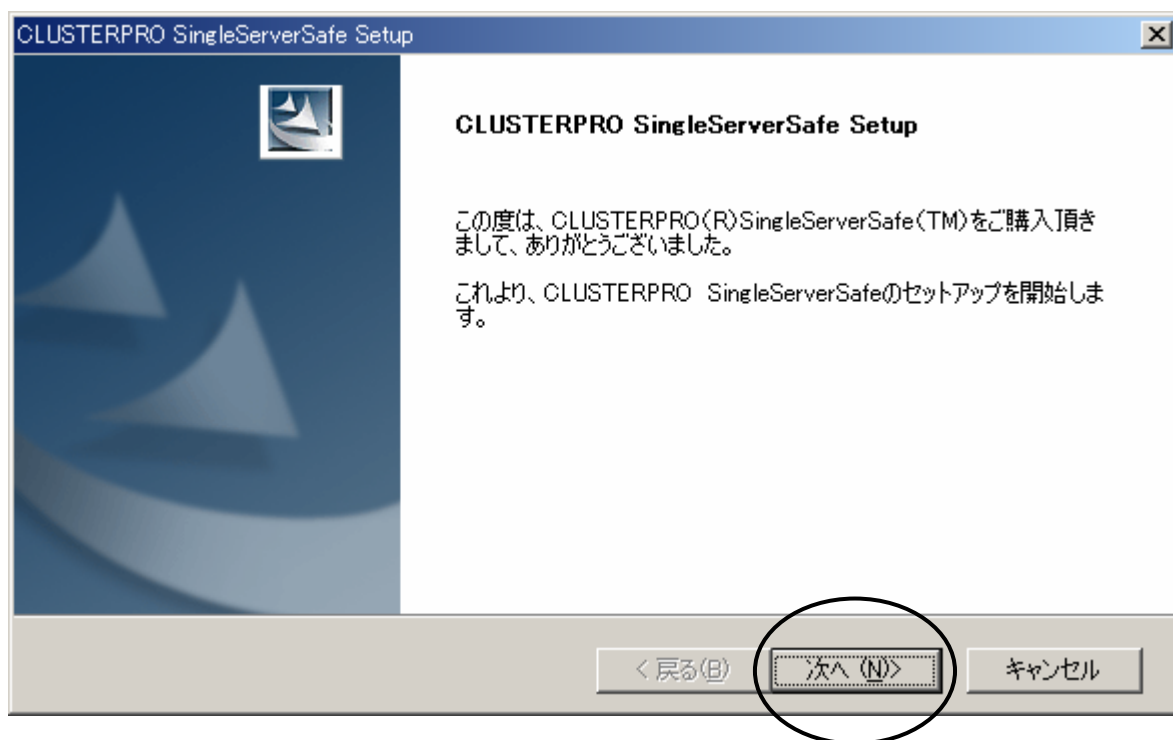
CLUSTERPRO SingleServerSafeのCD媒体をCDトレイに挿入すると、自動的にインストール画面が表示されます。インストール画面が表示されない場合は、[スタート]→[ファイル名を指定して実行]→[ドライブ名¥ Setup.exe]を実行してください。

実行例 : [Q:¥ Setup.exe]



3.2 インストール開始画面

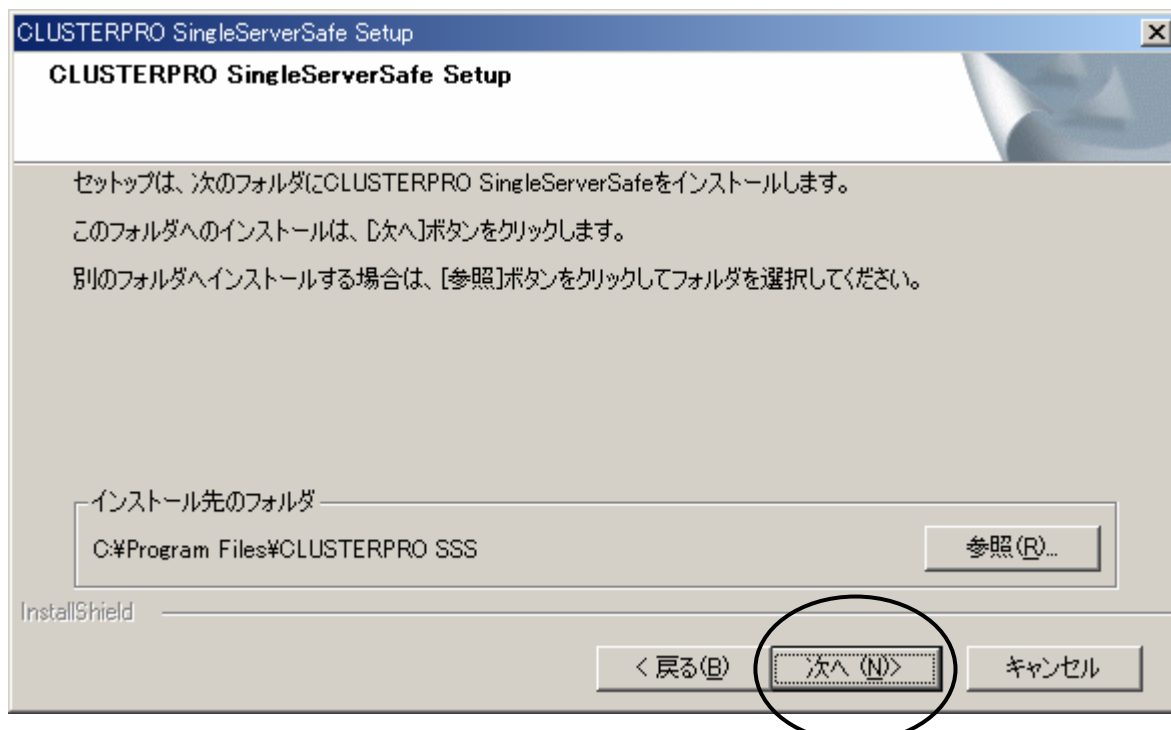
インストール開始の確認画面が表示されます。



[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

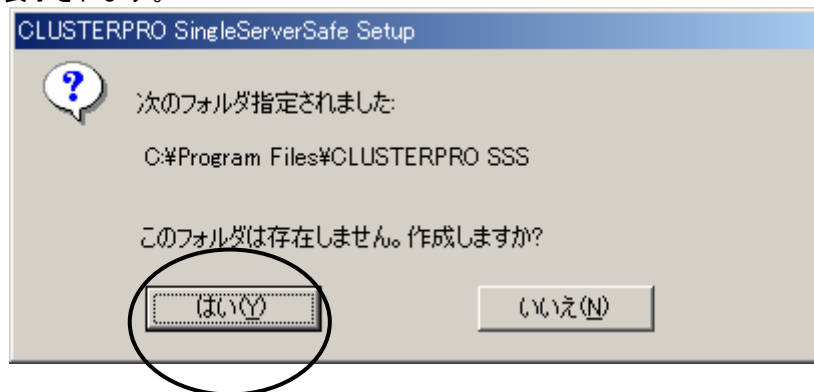
3.3 インストールフォルダ指定画面

インストールフォルダを指定する画面が表示されます。



[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

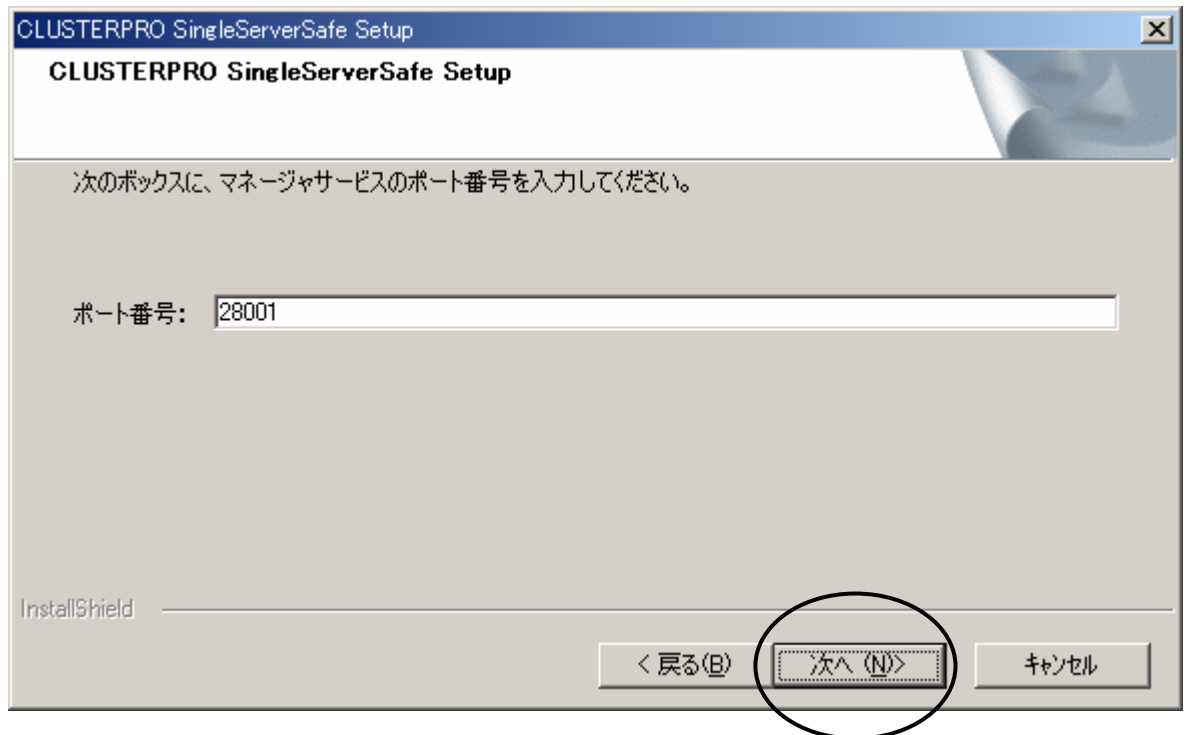
[次へ(N)]ボタンをクリックしたとき、指定したフォルダが存在しない場合は、以下の確認画面が表示されます。



[はい(Y)]ボタンをクリックしてください。

3.4 マネージャサービスのポート番号入力画面

マネージャサービスのポートを入力する画面が表示されます。



CLUSTERPRO SingleServerSafe Setup

CLUSTERPRO SingleServerSafe Setup

次のボックスに、マネージャサービスのポート番号を入力してください。

ポート番号: 28001

InstallShield

< 戻る(B) **次へ(N)>** キャンセル

[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

3.5 Administratorのユーザ名・パスワード入力画面

Administratorのユーザ名・パスワードを入力する画面が表示されます。

CLUSTERPRO SingleServerSafe Setup

Administrator権限のあるユーザ名とパスワードを入力してください。

ユーザー名 : Administrator


パスワード :

パスワードの確認入力 :

InstallShield

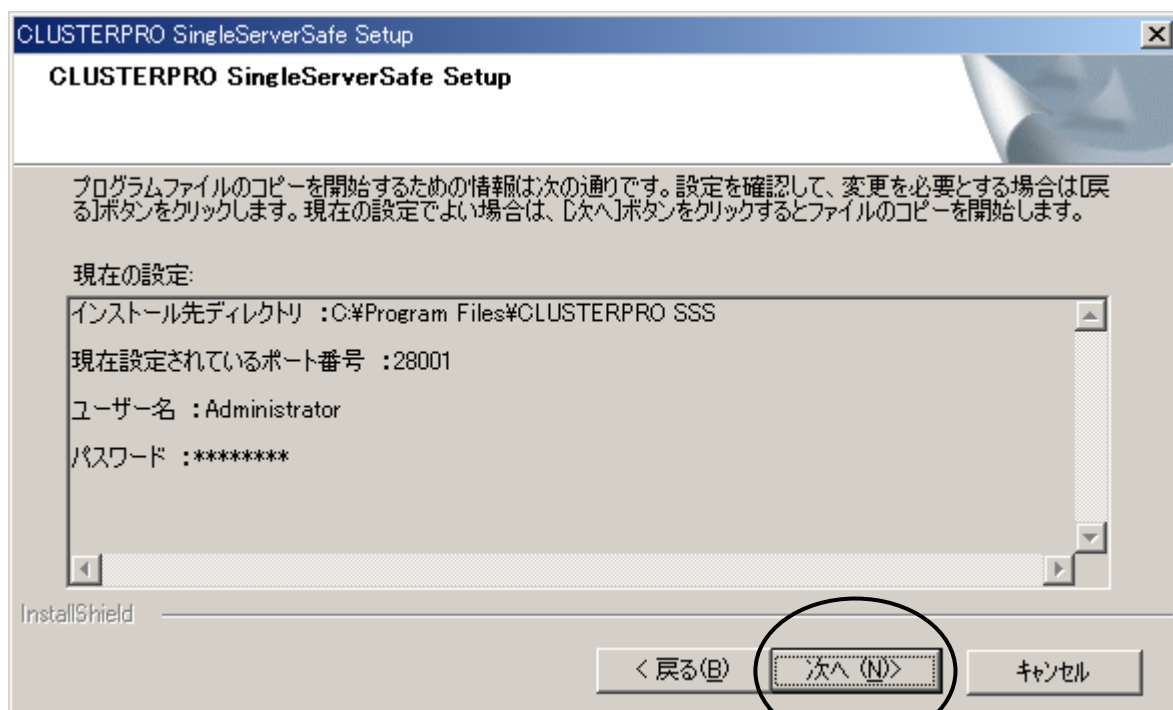
< 戻る(B) 次へ(N)> キャンセル

パスワードとパスワードの確認入力の欄にはWindowsに設定されているAdministratorのパスワードを入力してください。
[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

 WindowsにAdministratorのパスワードが設定されていない場合、CLUSTERPRO SingleServerSafeをインストールすることはできません。

3.6 入力内容の確認画面

入力した内容の確認画面が表示されます。

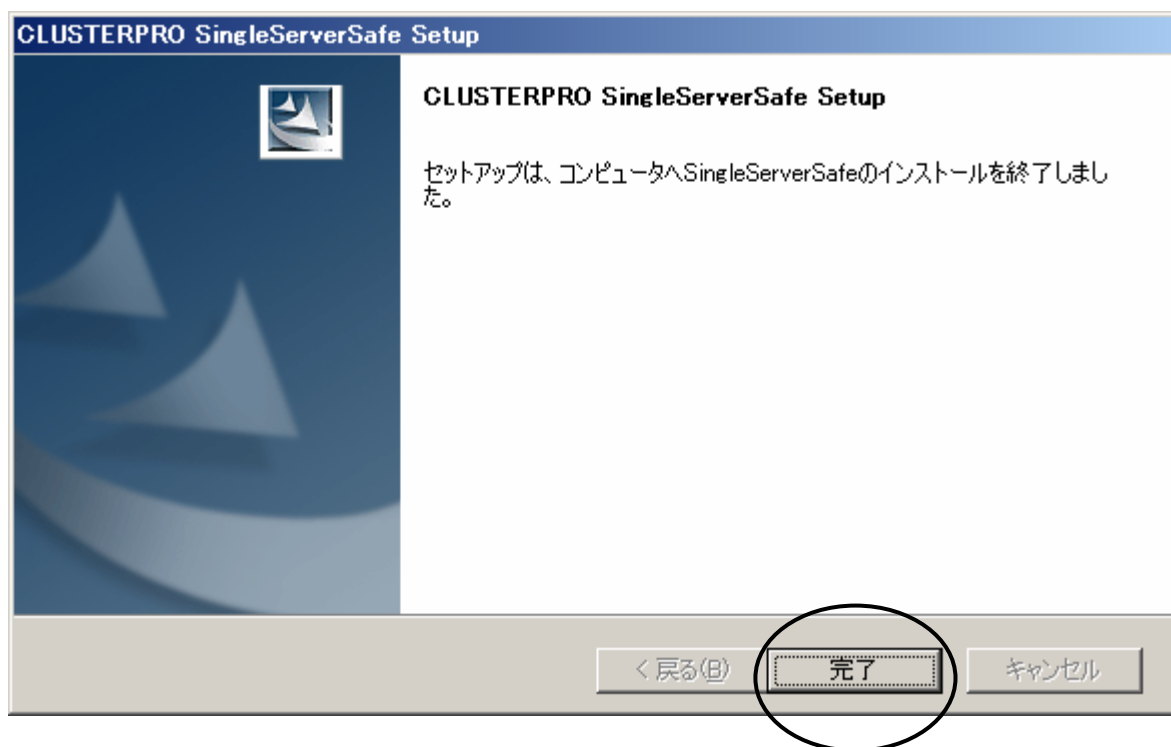


設定内容に問題がないことを確認して、[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。[次へ(N)]ボタンをクリックするとファイルのコピーなどセットアップ処理が実行されます。

※パスワードは、指定した文字数にかかわらず * (アスタリスク)が表示されます。

3.7 インストール完了画面

インストールが完了すると、インストール完了の画面が表示されます。



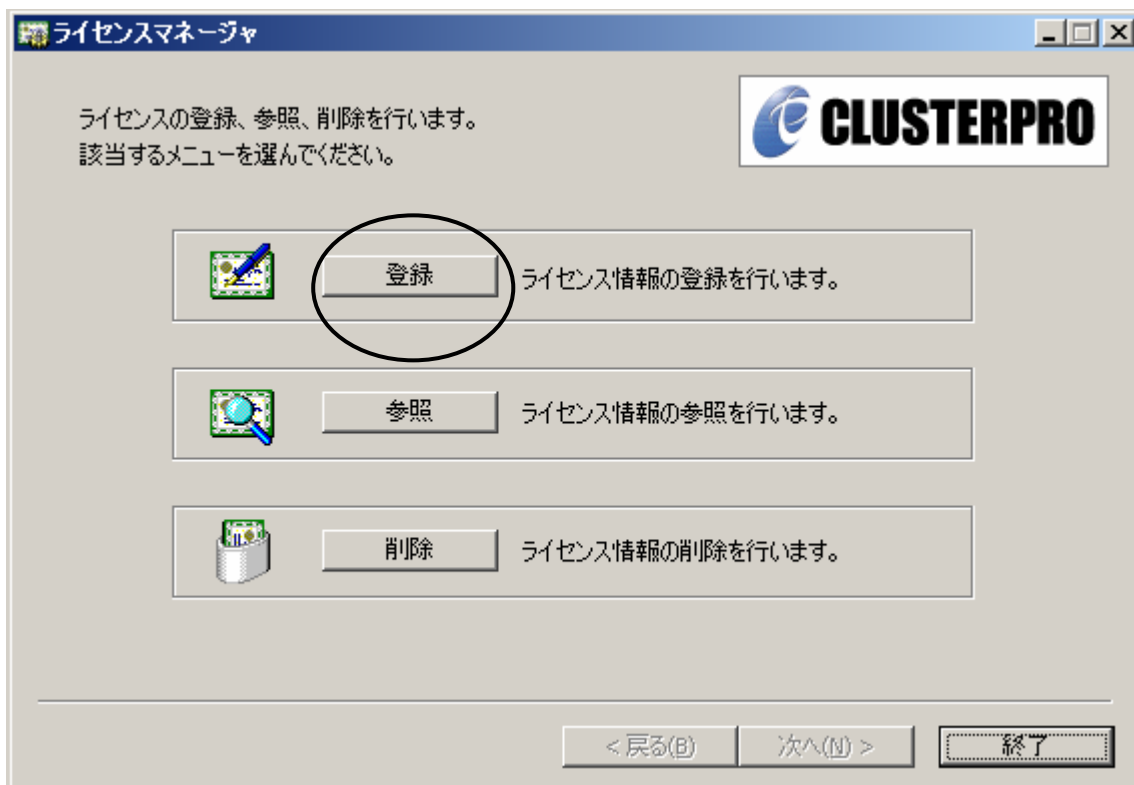
[完了]ボタンをクリックしてください。
ライセンス登録画面が表示されます。

3.8 ライセンス登録画面

インストールが完了すると、ライセンス登録画面が表示されます。



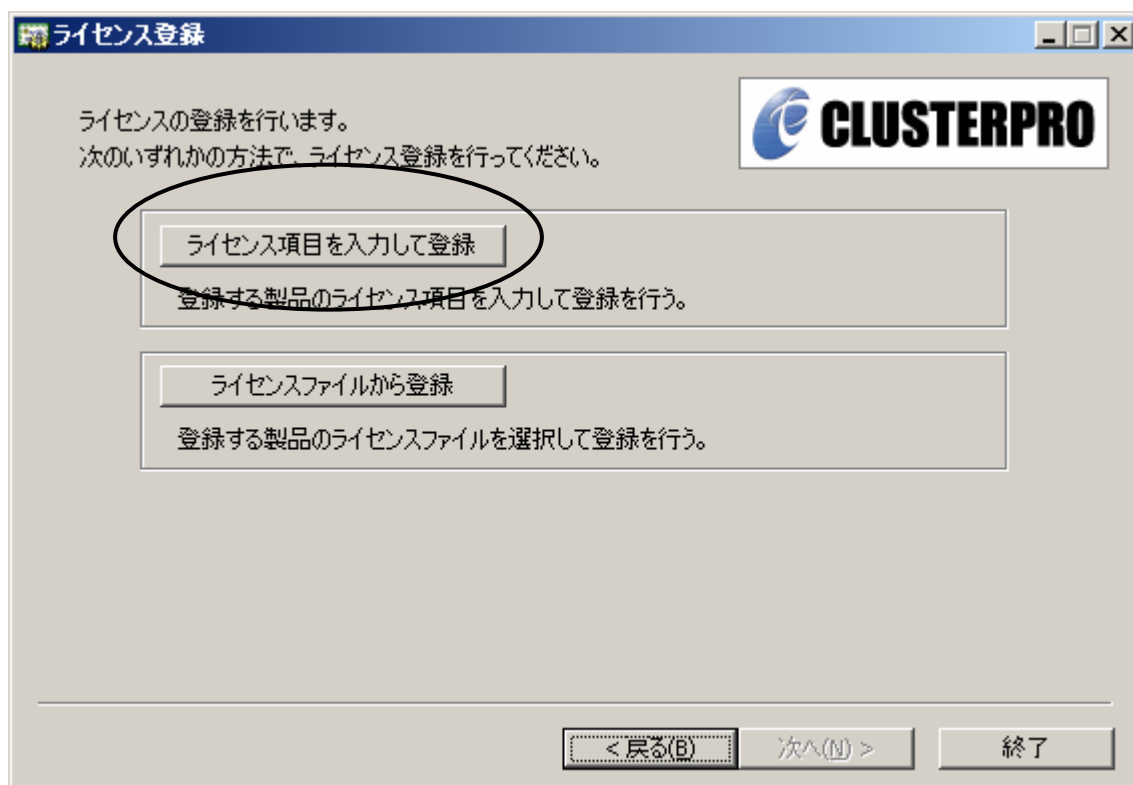
ライセンス情報は、製品に同梱されているライセンスシートに記述されています。ライセンスシートは、再セットアップ時にも必要になりますので、大切に保管してください。



[登録]ボタンをクリックしてください。

3.9 ライセンス登録方法選択画面

[登録]ボタンをクリックすると、ライセンス登録方法を選択する画面が表示されます。



[ライセンス項目を入力して登録]ボタンをクリックしてください。



[ライセンスファイルから登録]は、試用版でライセンスキーのファイルを手にした場合に使用します。

3.10 製品選択画面

[ライセンス項目を入力して登録]ボタンをクリックすると、製品を選択する画面が表示されます。

製品名	ライセンス種別
CLUSTERPRO(R) LE for Windows Ver7.0	クラスタライセンス
CLUSTERPRO(R) SE for Windows Ver7.0	クラスタライセンス
CLUSTERPRO(R) LX for Windows Ver7.0	クラスタライセンス
CLUSTERPRO(R) SX for Windows Ver7.0	クラスタライセンス
CLUSTERPRO(R) EE for Windows Ver7.0	クラスタライセンス
CLUSTERPRO(R) SingleServerSafe(TM) for Windows Ver1.0	クラスタライセンス
CLUSTERPRO(R) FastSync(TM) Option for Windows Ver7.0	ノードライセンス
CLUSTERPRO(R) Exchange Server Support Kit R2.0	ノードライセンス
CLUSTERPRO(R) データベース監視オプションR2.0	ノードライセンス

OS情報に[Windows版]、製品区分に[製品版]を選択し、製品情報に[CLUSTERPRO(R) SingleServerSafe(TM) for Windows Ver1.0]を選択して、[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。



[ライセンス種別]に[クラスタライセンス]と表示されていますが、本製品はクラスタリング製品ではありません。[ライセンス種別]に特別な意味はありません。

3.11 ライセンス単位選択画面

[次へ(N)]ボタンをクリックすると、ライセンス単位を選択する画面が表示されます。

ライセンス単位選択

CLUSTERPRO

ライセンス単位を選択してください。
ライセンス単位を選択し、「次へ」を選択してください。

ノード単位を選択した場合は、ノード数を入力してください。
CPU単位を選択した場合は、CPU数を入力してください。

☐ ノード単位 ノードライセンス数 :

☒ CPU単位 CPUライセンス数 :

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[CPU単位]を選択して、CPUライセンス数に[2]を入力してください。
[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

3.12 ライセンスキー入力画面

[次へ(N)]ボタンをクリックすると、シリアルNoとライセンスキーを入力する画面が表示されます。

ライセンスキー入力

シリアルNoとライセンスキーを入力します。
シリアルNoとライセンスキーを入力し「次へ」を選択してください。

シリアルNo :

ライセンスキー : - - -

(注意) *****_***** で指定してください。

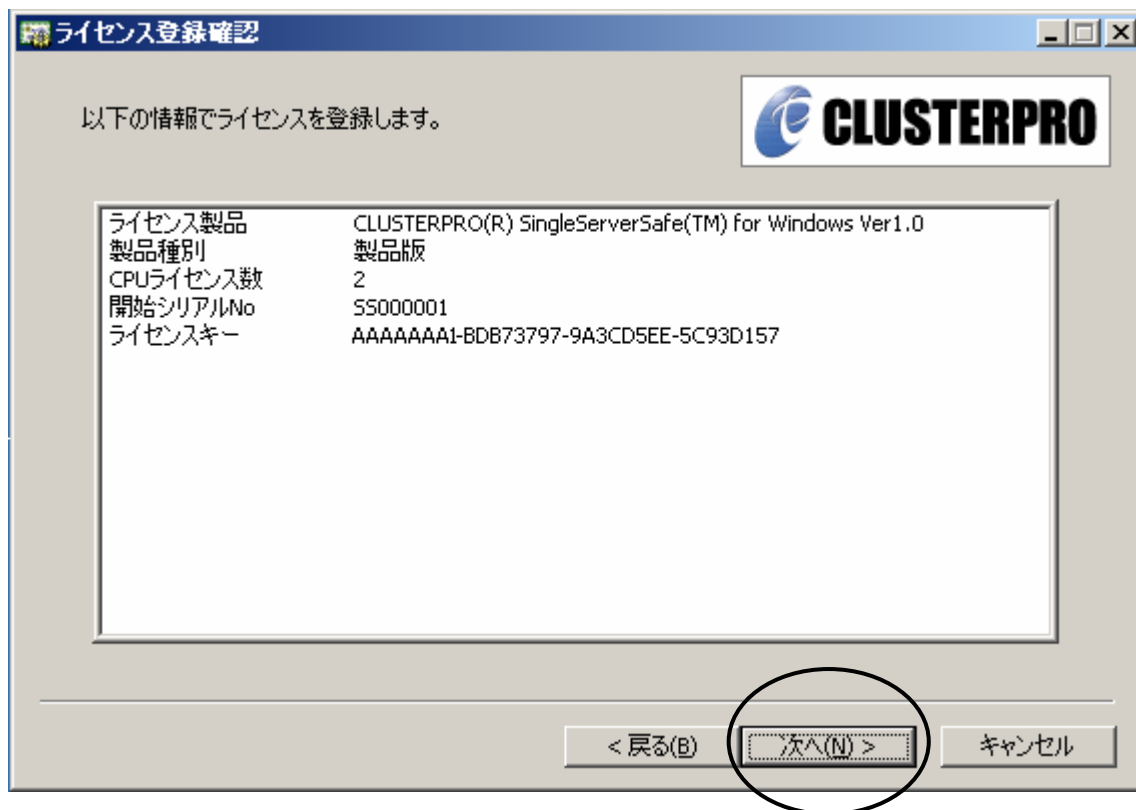
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

シリアルNoとライセンスキーを入力してください。
シリアルNoとライセンスキーは、ライセンスシートを参照して入力してください。

各値を入力して、[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

3.13 入力ライセンス確認画面

[次へ(N)]ボタンをクリックすると、入力したライセンスの確認画面が表示されます。



[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

3.14 ライセンス登録

[次へ(N)]ボタンをクリックすると、ライセンス登録が行われ、登録完了のダイアログが表示されます。



ダイアログの[OK]ボタンをクリックすると、ライセンス登録画面に戻ります。

3.15 ライセンス登録画面

ライセンス登録完了のダイアログで[OK]ボタンを押すと、ライセンス登録画面に戻ります。
[終了]ボタンをクリックすると、ライセンス登録作業が終了します。

[登録]ボタンをクリックすると、次のライセンスキーの登録を行います。

ライセンスを追加する場合、3.9から3.14までを繰り返してください。



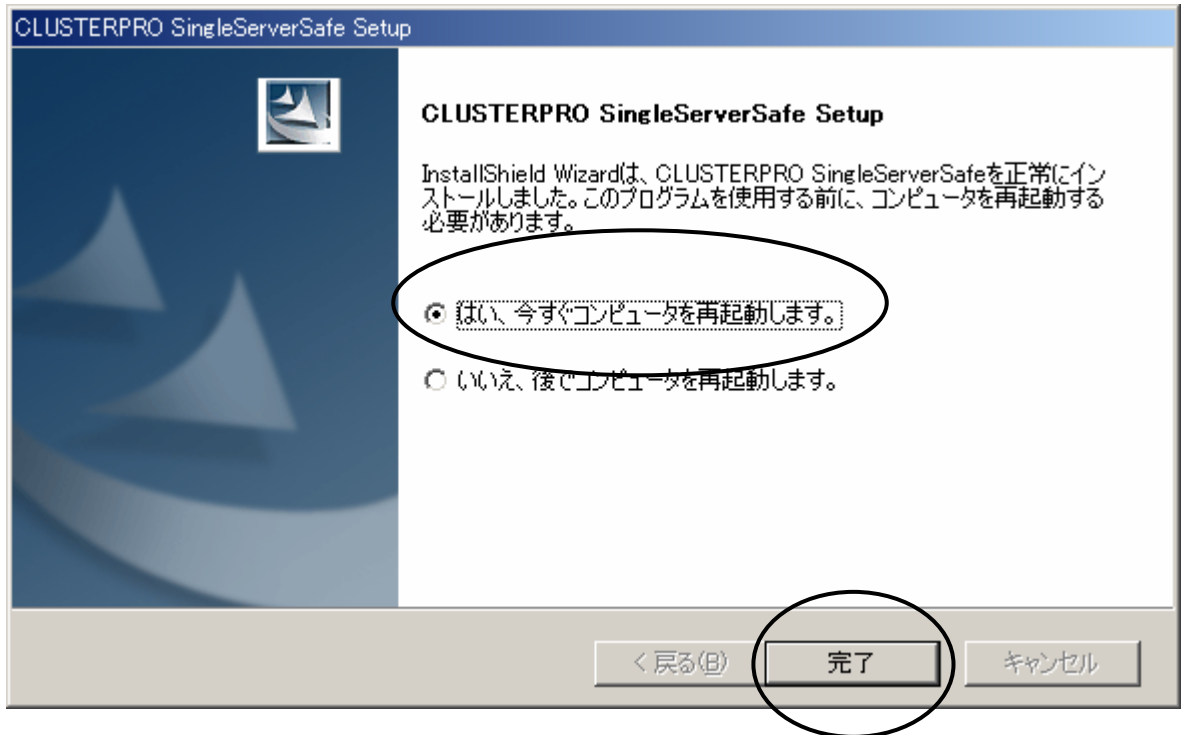
CLUSTERPRO SingleServerSafeのライセンスは、2CPUライセンスです。サーバに3CPU以上搭載されている場合は、[登録]ボタンを押して次のライセンスキーのライセンスを追加します。ライセンスを2つ登録すると、4CPUライセンスになります。3CPU搭載サーバおよび4CPU搭載サーバは、CLUSTERPRO SingleServerSafeのライセンスが2つ必要です。5CPU以上の場合も同様に複数のライセンスを登録する必要があります。



必要なライセンス数を登録したら、[終了]ボタンをクリックしてください。

3.16 再起動確認画面

[終了]ボタンをクリックすると、コンピュータの再起動確認用の画面が表示されます。



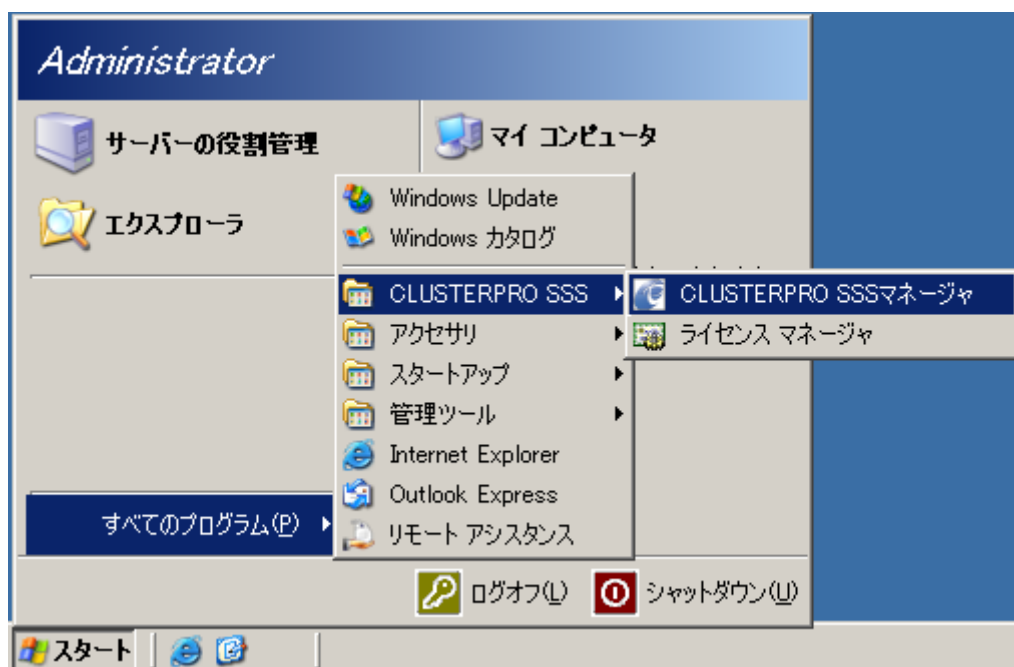
[はい、今すぐコンピュータを再起動します。]を選択して、[完了]ボタンをクリックしてください。



サーバの再起動を行わずにCLUSTERPRO SingleServerSafeのサービスを起動すると、正常にサービスが起動しません。必ず、サーバの再起動を行ってください。

3.17 スタートメニュー

CLUSTERPRO SingleServerSafeをインストールすると、以下のスタートメニューが作成されます。



*CLUSTERPRO SSSマネージャ

CLUSTERPRO SSSマネージャのブラウザを開きます。

*ライセンスマネージャ

CLUSTERPRO ライセンスマネージャの画面が表示されます。

4 CLUSTERPRO SingleServerSafeマネージャ設定

CLUSTERPRO SingleServerSafeマネージャについて説明します。

4.1 ブラウザの設定

CLUSTERPRO SingleServerSafeの設定や監視を行うために、ブラウザの設定を行う必要があります。

CLUSTERPRO SingleServerSafeをインストールしたサーバ上で、ブラウザを起動してください。

4.1.1 インターネット接続の設定

Internet Explorerを起動して、下記の画面が表示された場合は、インターネット接続の設定が行われていないので、画面に従ってインターネット接続の設定を行ってください。設定方法の詳細については、Microsoftの資料等を参考にしてください。



4.1.2 サポートブラウザとJavaランタイム

CLUSTERPRO SingleServerSafeマネージャとの接続には以下のブラウザが利用できません。

- * **Microsoft® Internet Explorer 6.0 SP1 以降**

ただし、CLUSTERPRO SingleServerSafeのマネージャ画面を表示するためには、ブラウザにJava 2 Runtime Environment が組み込まれている必要があります。

- * **Java™ 2 Runtime Environment, Standard Edition Version 1.4.1以上**

Javaランタイムは、<http://java.sun.com/j2se/1.4.2/ja/download.html>などから入手してください(URLは、変更されることがあります)。

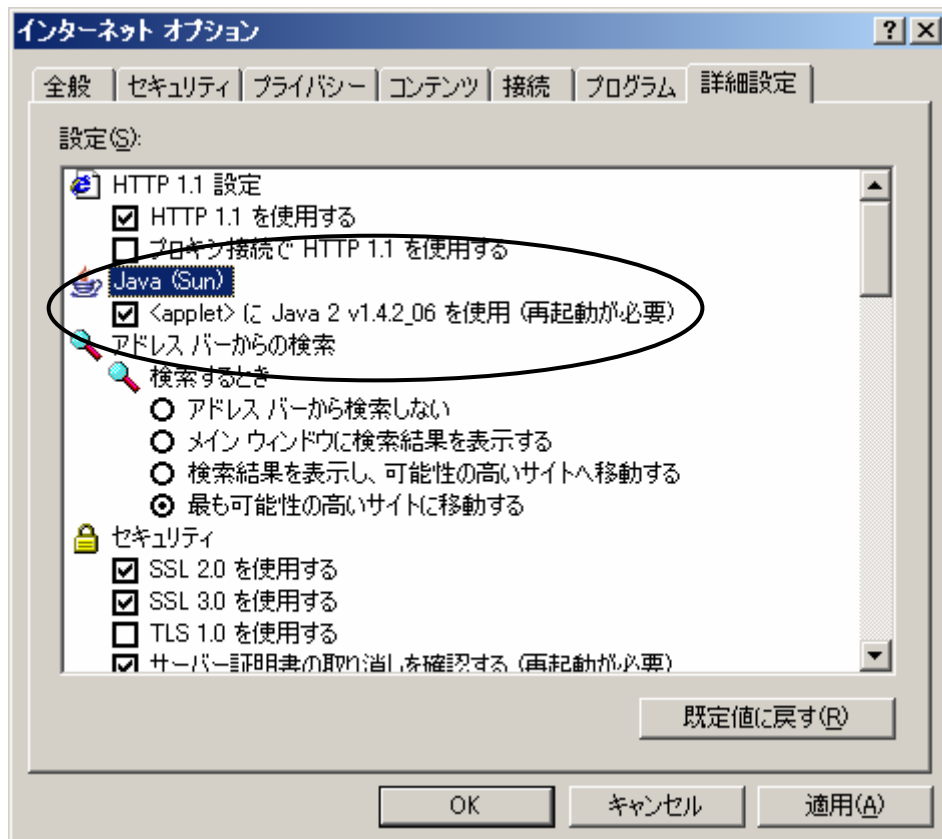
WebブラウザにJavaプラグインを組み込む方法については、Webブラウザのヘルプ、並びにJavaVMのインストールガイドを参照してください。

4.1.3 Internet Explorerの設定

Javaランタイムのインストール後に、Internet Explorerの[ツール]→[インターネットオプション]の[詳細設定]タブを開いて、Javaアプレットが使用可能になっているかを確認してください。

下記の図の<applet>にJava2v1.4.2_06を使用(再起動が必要)にチェックがついていなければ、チェックを付けてください。

※Java2v1.4.2_06の部分はお使いのバージョンによって異なります。

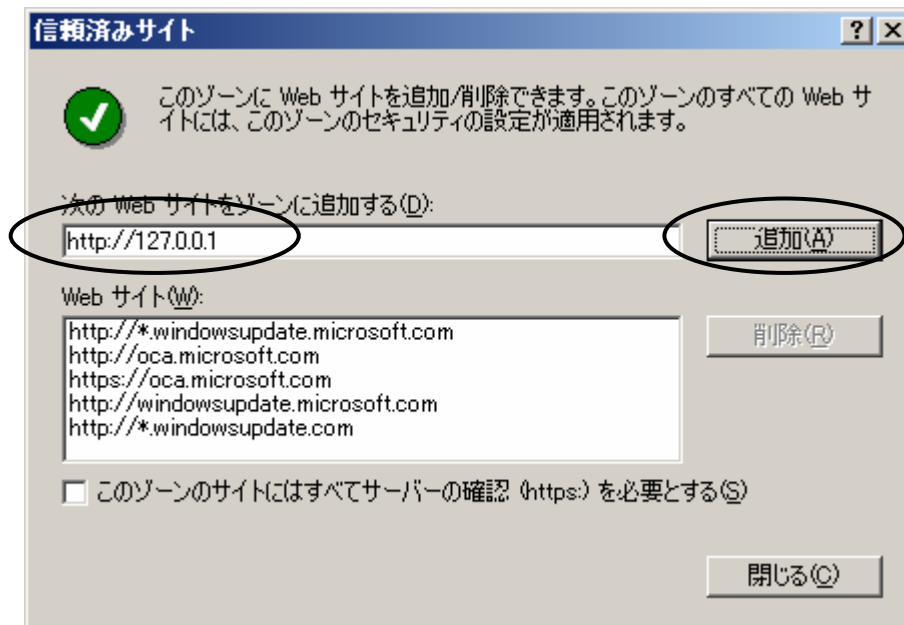


<applet>にJava2v1.4.2_06を使用(再起動が必要)にチェックを入れた場合は信頼済みサイトの登録の後、再起動してください。

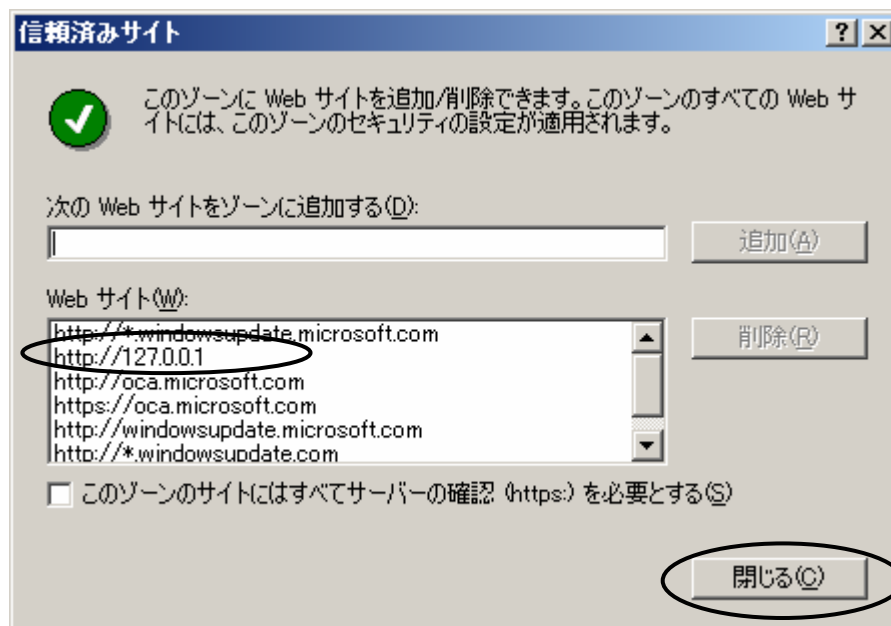
再起動する場合は、[OK]ボタンをクリックして、[スタート]→[シャットダウン]→[再起動]を選択し、説明に"a"を入力して、[OK]ボタンをクリックしてください。

同じダイアログの[セキュリティ]タブを開いて、[信頼済みサイト]を選択して、[サイト]ボタンをクリックし、信頼済みサイトにサーバのURLを追加してください。サーバ上のInternet Explorerの場合は、http://127.0.0.1をURLに入力してください。

[追加(A)]ボタンをクリックしてください。



[追加(A)]ボタンをクリックすると、以下のように登録されます。
[閉じる(C)]ボタンをクリックしてください。



「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https:)を必要とする(S)」のチェックボックスのチェックをオフにしてください。
オンにしていた場合、下記のダイアログが表示され、Webサイトを登録することができません。

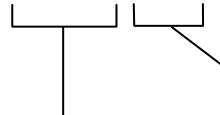


4.2 CLUSTERPRO SSSマネージャへの接続

CLUSTERPRO SSSマネージャ画面を表示する場合、ブラウザにURLとして以下を指定します。

CLUSTERPRO SSSマネージャはCLUSTERPRO SSSをインストールしたサーバ上で、起動してください。

`http://127.0.0.1:28001/`

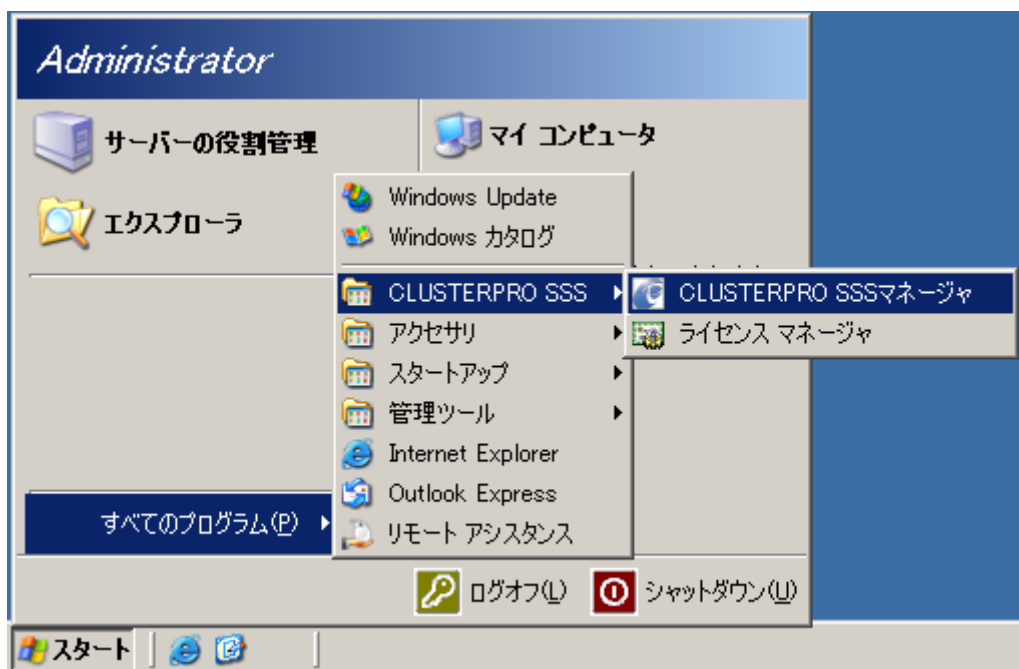


CLUSTERPRO SSSマネージャ
サービスのポート番号を入力します。

接続先IPアドレスを入力します。

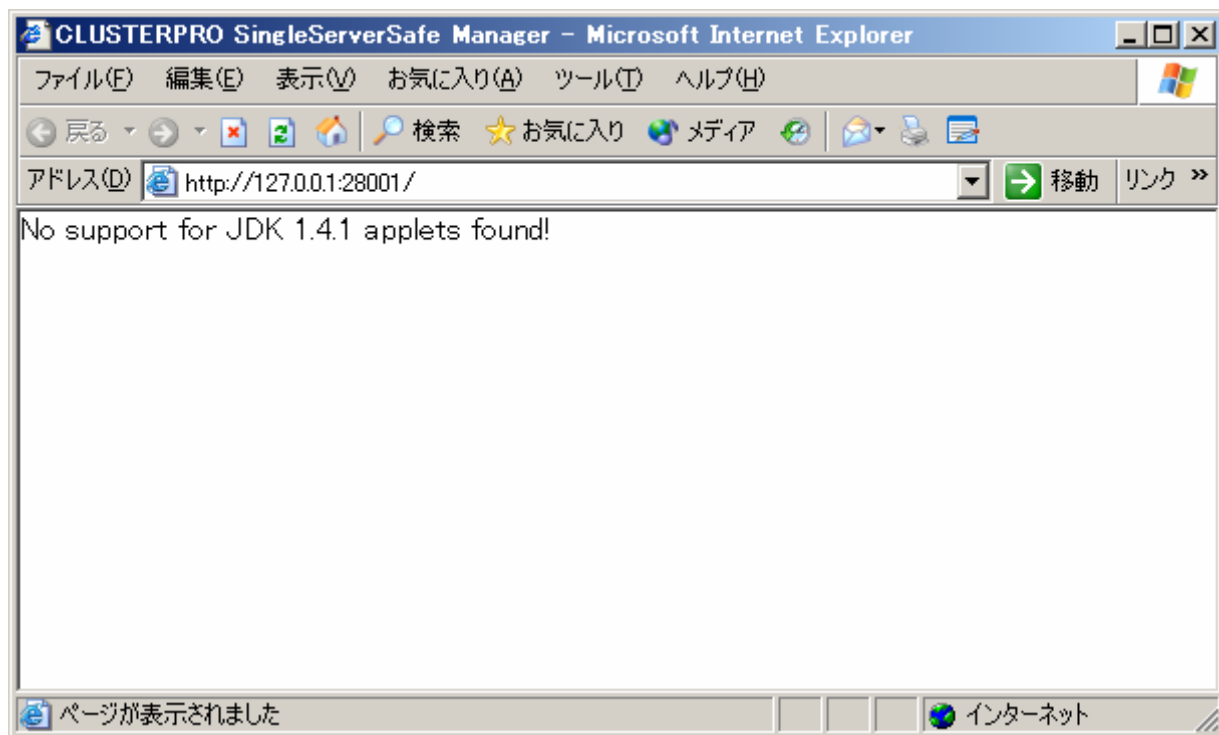
接続先IPアドレスは、ローカルホストのIPアドレスを指定してください。

CLUSTERPRO SingleServerSafeをインストールしたサーバ上の場合は、スタートメニューから表示を指示することができます。

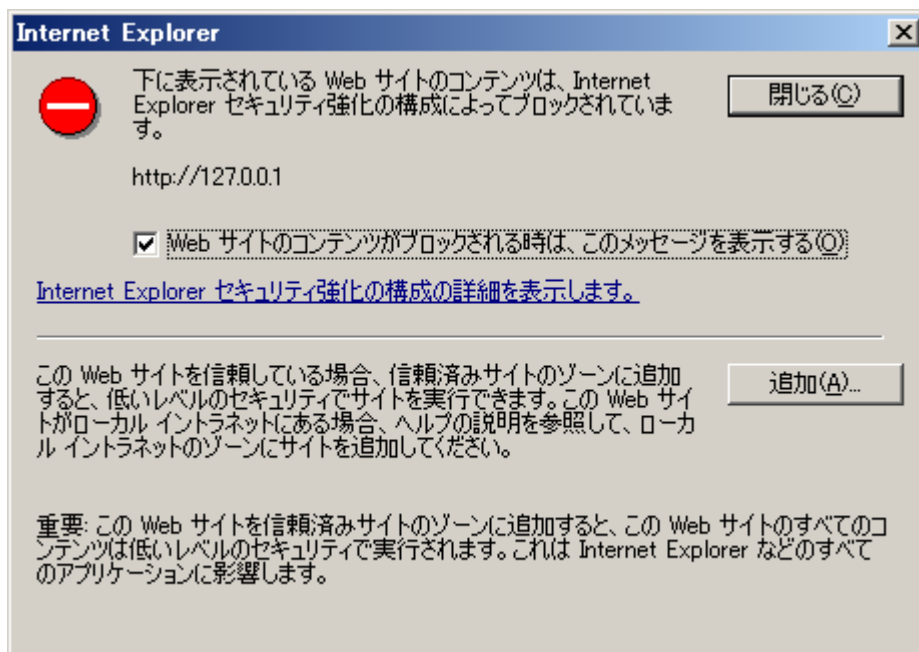


「CLUSTERPRO SSSマネージャ」を指定した場合、サーバ上にブラウザが開いていると、あらたにInternet Explorerを起動するのではなく、現在表示している内容が、CLUSTERPRO SSS情報に置き換わります。

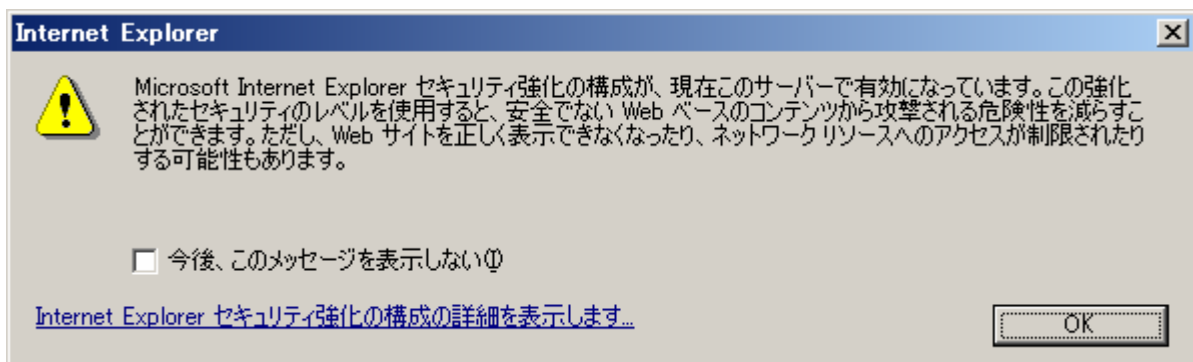
Javaランタイムのバージョンが古いと、CLUSTERPRO SSSマネージャ画面を表示させようとすると、以下の画面が表示されます。Internet Explorerの設定が正しくない場合も表示されることがあります。



Internet Explorerの設定で、信頼済みサイトの設定が正しくないと、以下のようなエラーメッセージが表示されます。[閉じる(C)]ボタンまたは、[OK]ボタンをクリックして正しく設定しなおしてください。



Internet Explorerの設定が正しくても、以下のメッセージが表示されることがあります。このメッセージが表示されることは問題ありません。[OK]ボタンをクリックしてください。

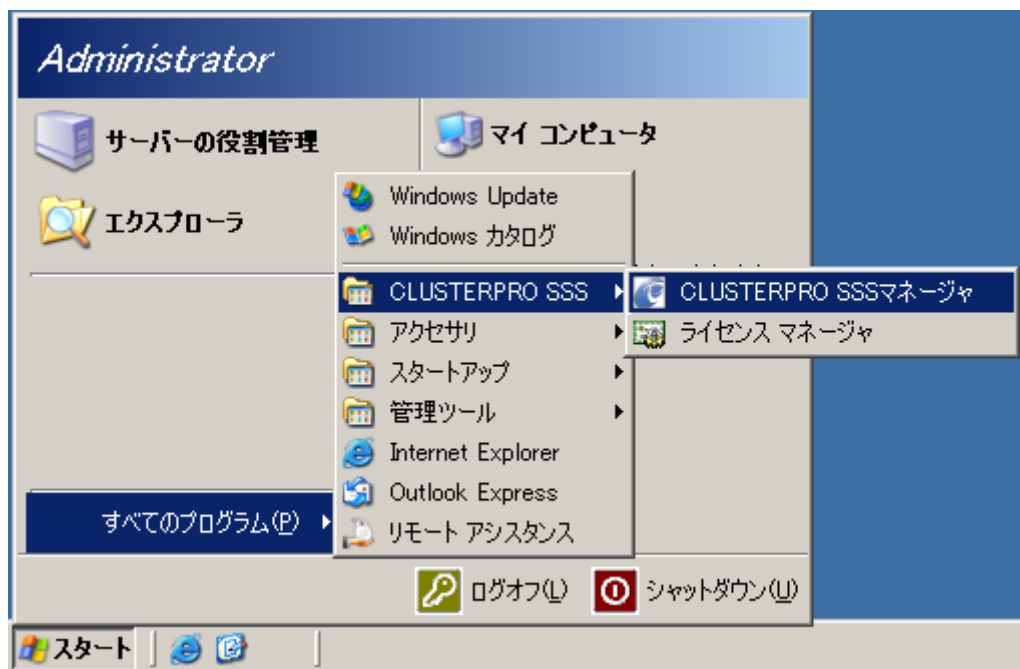


5 監視の設定

この章では、CLUSTERPRO SingleServerSafeの監視機能を設定する方法について説明します。

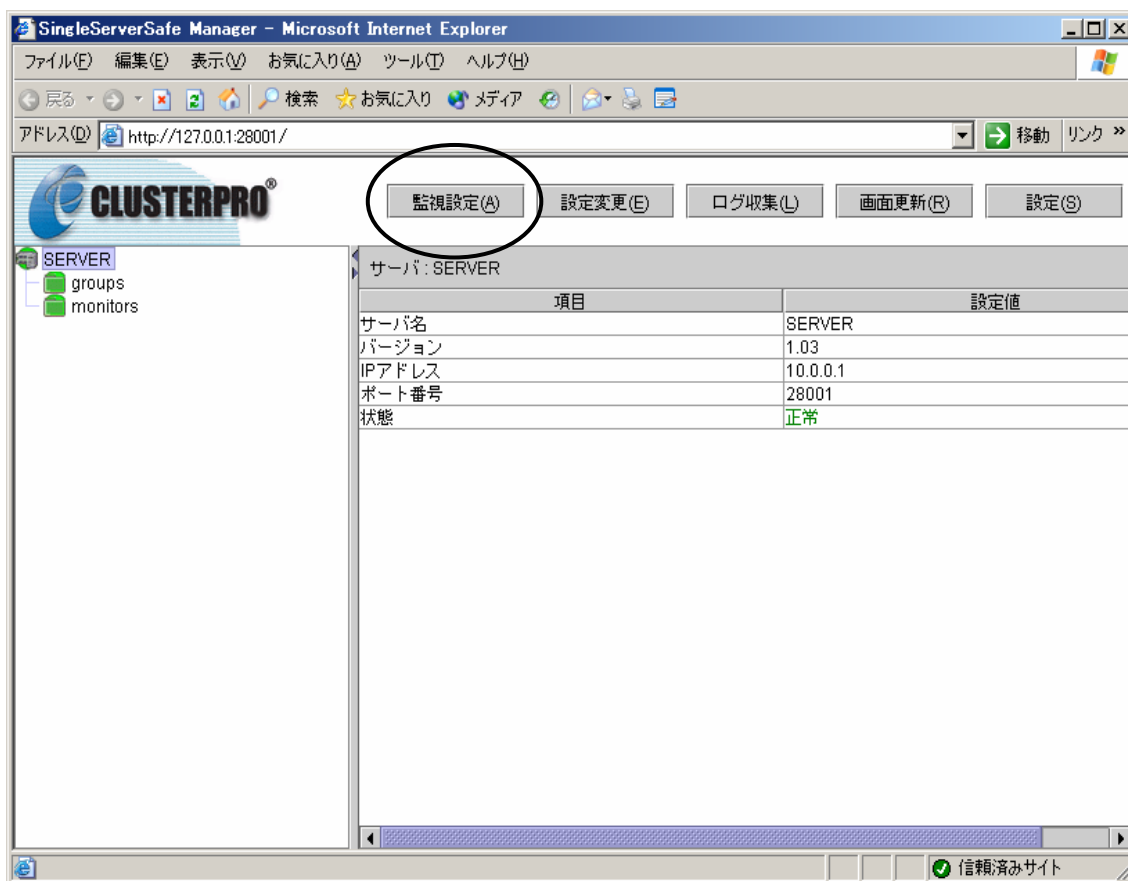
5.1 CLUSTERPRO SSSマネージャマネージャ画面の表示

スタートメニューから[CLUSTERPRO SSSマネージャ]をクリックして、ブラウザ上にマネージャ画面を表示します。



5.2 初期画面

Internet Explorer上に、CLUSTERPRO SingleServerSafeマネージャ画面が表示されます。



画面上部の[監視設定(A)]ボタンを選択して、監視設定用の画面が表示され、監視情報を設定します。

※監視設定を行った直後は、監視処理を行っていないので、サーバを再起動ください。

5.3 監視の設定(OS監視)

5.3.1 監視種別の選択

タイトルビューの[監視設定(A)]ボタンをクリックすると、監視設定画面が表示されます。
監視名を入力して、監視種別:OSを選択してください。
[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "監視設定" (Monitoring Settings). It has a close button (X) in the top right corner. The "監視名" (Monitoring Name) field contains the text "OS". Below this, the "監視種別" (Monitoring Type) section is divided into two columns: "ソフトウェア" (Software) and "ハードウェア" (Hardware). Under "ソフトウェア", there are three radio button options: "アプリケーション" (Application), "カスタム設定" (Custom Settings), and "OS". The "OS" option is selected, indicated by a filled radio button and a small blue selection box around the text. Under "ハードウェア", there are three radio button options: "ディスク" (Disk), "IPアドレス" (IP Address), and "LANポート" (LAN Port). The "ディスク" option is selected, indicated by a filled radio button. At the bottom of the dialog, there are three buttons: "< 戻る(B)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル" (Cancel). The "次へ(N) >" button is circled with a black line.

*監視名

任意の監視名を指定します。設定可能文字は、8バイト以内の英数字のみです。大文字・小文字を区別しません。同一の監視名を指定することはできません。

監視内容がわかるような名前を指定します。

ここで指定した名前が、監視リソース名としてマネージャの画面に表示されます。アプリケーション監視(サービスを含む)の場合は、グループ名にもなります。

*監視種別

監視を行う対象を指定します。

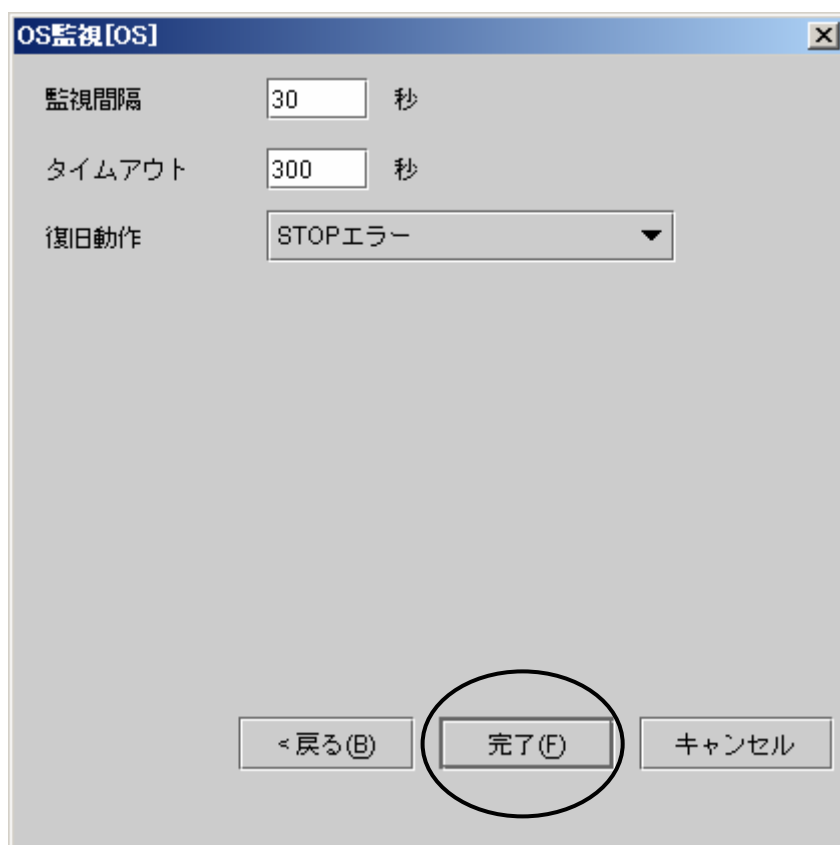
ソフトウェアの監視として、アプリケーション、カスタム設定、OSを、ハードウェアの監視として、ディスク、IPアドレス、LANボードを選択することができます。



CLUSTERPRO LAN監視オプションがインストールされていないと、LANボード監視を選択することはできません。

5.3.2 OS監視

監視設定の画面の監視種別で「OS」を選択した場合、以下の画面が表示されます。
[完了(F)]ボタンをクリックしてください。



The image shows a Windows-style dialog box titled "OS監視[OS]". It contains three settings: "監視間隔" (Monitoring Interval) set to 30 seconds, "タイムアウト" (Timeout) set to 300 seconds, and "復旧動作" (Recovery Action) set to "STOPエラー" (Stop Error). At the bottom, there are three buttons: "<戻る(B)" (Back), "完了(F)" (Finish), and "キャンセル" (Cancel). The "完了(F)" button is circled with a black line, indicating it should be clicked.

監視間隔	30	秒
タイムアウト	300	秒
復旧動作	STOPエラー ▼	

<戻る(B) 完了(F) キャンセル



復旧動作の指定をSTOPエラーにした場合、障害発生によりSTOPエラーが発生した後にサーバの再起動が行われるかどうかは、OSの設定に依存します。

[システムのプロパティ] → [詳細] タブ → 「起動と回復」の画面の

「自動的に再起動する」

チェックありの場合

STOPエラー発生後、自動的にサーバが再起動

チェックなしの場合

STOPエラー発生後、サーバの再起動を行わない

起動と回復

起動システム

既定のオペレーティング システム(S):

"Windows Server 2003, Enterprise" /fastdetect

☒ オペレーティング システムの一覧を表示する時間(T): 30 秒間

☐ 必要ときに修復オプションを表示する時間(D): 30 秒間

起動のオプション ファイルを手動で編集するには、
[編集] をクリック: 編集(E)

システム エラー

☒ システム ログにイベントを書き込む(W)

☒ 管理者へ警告を送信する(N)

☒ 自動的に再起動する(R)

デバッグ情報の書き込み

完全メモリ ダンプ

ダンプ ファイル:

%SystemRoot%\MEMORY.DMP

☒ 既存のファイルに上書きする(O)

OK キャンセル



システムディスクは、NTFSでフォーマットされている必要があります。
また、監視用に空き容量が2Mバイトが必要です。



システムドライブ直下に、SSSDCKという名前の監視用のフォルダが作成されます。同一名のフォルダを作成しないようにしてください。
また、OS監視終了後も、SSSDCKフォルダは残ります。運用上、OS監視の運用を停止する場合などは、手動でSSSDCKフォルダを削除するようにしてください。

5.4 監視の設定(ディスク監視)

5.4.1 監視種別の選択

タイトルビューの[監視設定(A)]ボタンをクリックすると、監視設定画面が表示されます。
監視名を入力して、監視種別:ディスクを選択してください。
[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

監視設定

監視名: DISK

監視種別

ソフトウェア ハードウェア

☐ アプリケーション ☒ ディスク

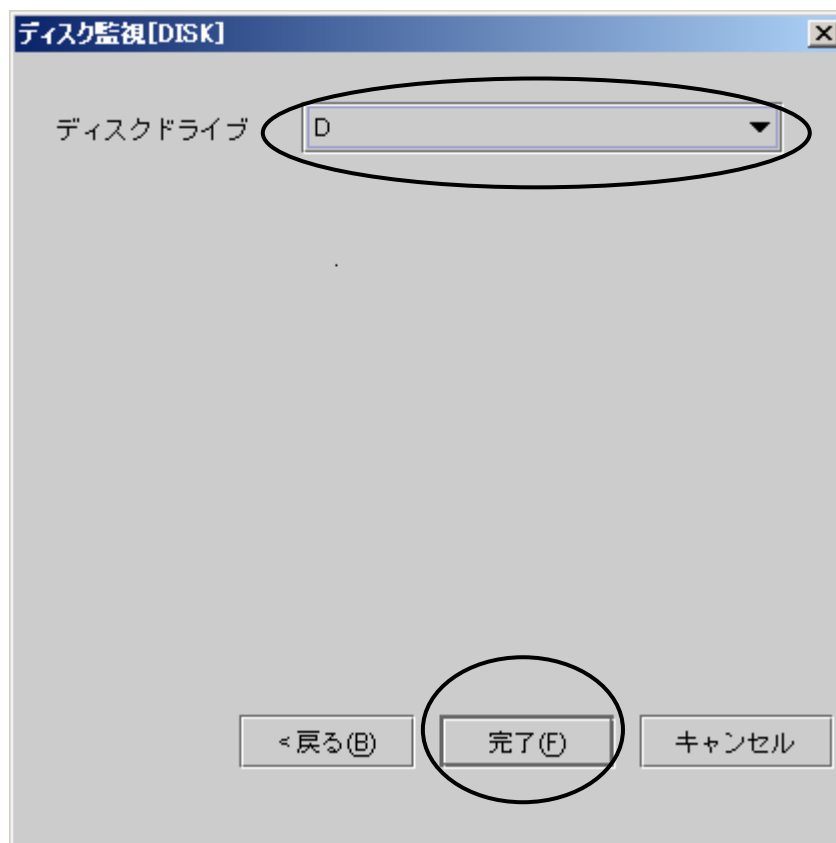
☐ カスタム設定 ☐ IPアドレス

☐ OS ☐ LANポート

<戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

5.4.2 ディスク監視

監視設定の画面の監視種別で「ディスク」を選択した場合、以下の画面が表示されます。ディスクドライブを入力して、[完了(F)]ボタンをクリックしてください。



*ディスクドライブ

監視するディスクドライブのドライブ文字を選択します。

表示するドライブは、サーバに存在する固定DISKでかつシステムDISKでないものになります。既に監視設定済みのドライブは表示されません。



システムドライブを指定することはできません。そのため、パーティションが1つしかない場合は、ディスク監視を行うことはできません。



監視を行うディスクドライブは、NTFSでフォーマットされている必要があります。
また、監視用に空き容量が2Mバイトが必要です。



監視対象のドライブ直下に、SSSDCKという名前の監視用のフォルダが作成されます。同一名のフォルダを作成しないようにしてください。
また、OS監視終了後も、SSSDCKフォルダは残ります。運用上、OS監視の運用を停止する場合などは、手動でSSSDCKフォルダを削除するようにしてください。

5.5 監視の設定(IPアドレス監視)

5.5.1 監視種別の選択

タイトルビューの[監視設定(A)]ボタンをクリックすると、監視設定画面が表示されます。
監視名を入力して、監視種別:IPアドレスを選択してください。
[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

監視設定

監視名

監視種別

ソフトウェア ハードウェア

☐ アプリケーション ☐ ディスク

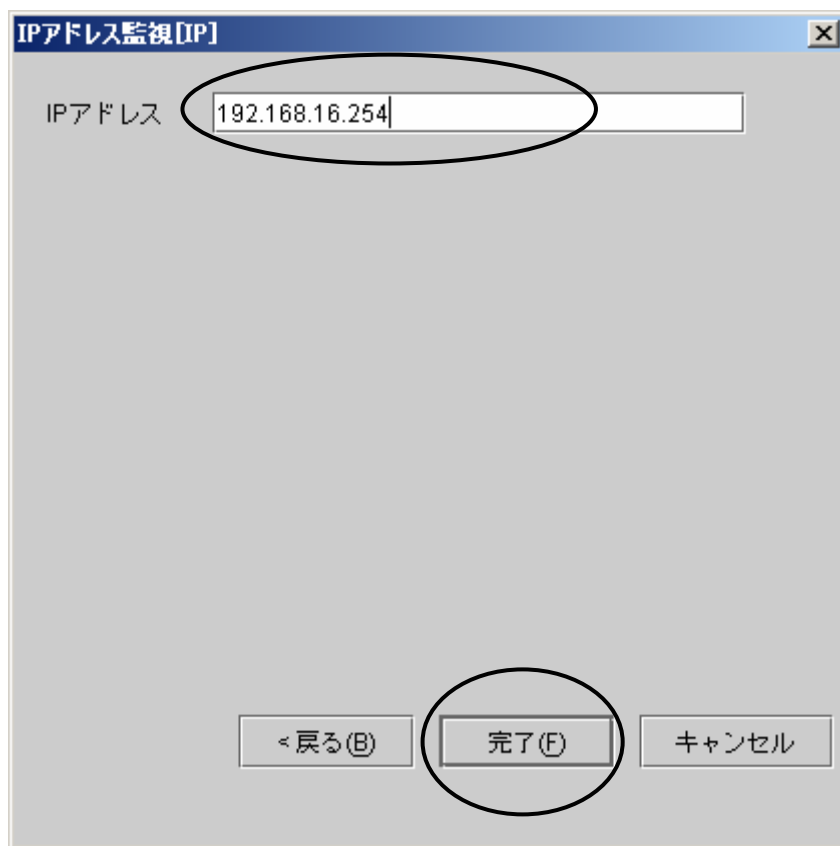
☐ カスタム設定 ☒ IPアドレス

☐ OS ☐ LANポート

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

5.5.2 IPアドレス監視

監視設定の画面の監視種別で「IPアドレス」を選択した場合、以下の画面が表示されます。IPアドレスを入力して、[完了(F)]ボタンをクリックしてください。



*IPアドレス

監視するIPアドレスを1つ指定します。

指定するIPアドレスは、常に接続可能なアドレスを入力してください。たとえば、DHCPサーバやDNSサーバなどのIPアドレスを入力してください。ネットワーク上に障害が発生すると、データ送信が不可になり、障害と判断します。



LANボードの2重化機能を使用する際は、IPアドレス監視を設定してください。



指定したIPアドレスに対してpingを実行するので、ネットワーク経路において、pingを遮断していないことを確認して運用してください。

5.6 監視の設定(FTP監視)

5.6.1 監視種別の選択

タイトルビューの[監視設定(A)]ボタンをクリックすると、監視設定画面が表示されます。
監視名を入力して、監視種別:アプリケーションを選択してください。
[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

監視設定

監視名: FTP

監視種別

ソフトウェア ハードウェア

☒ アプリケーション ☐ ディスク

☐ カスタム設定 ☐ IPアドレス

☐ OS ☐ LANポート

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

5.6.2 アプリケーション監視

監視設定の画面の監視種別で「アプリケーション」を選択した場合、以下の画面が表示されます。

アプリケーション監視[FTP]

アプリケーション種別

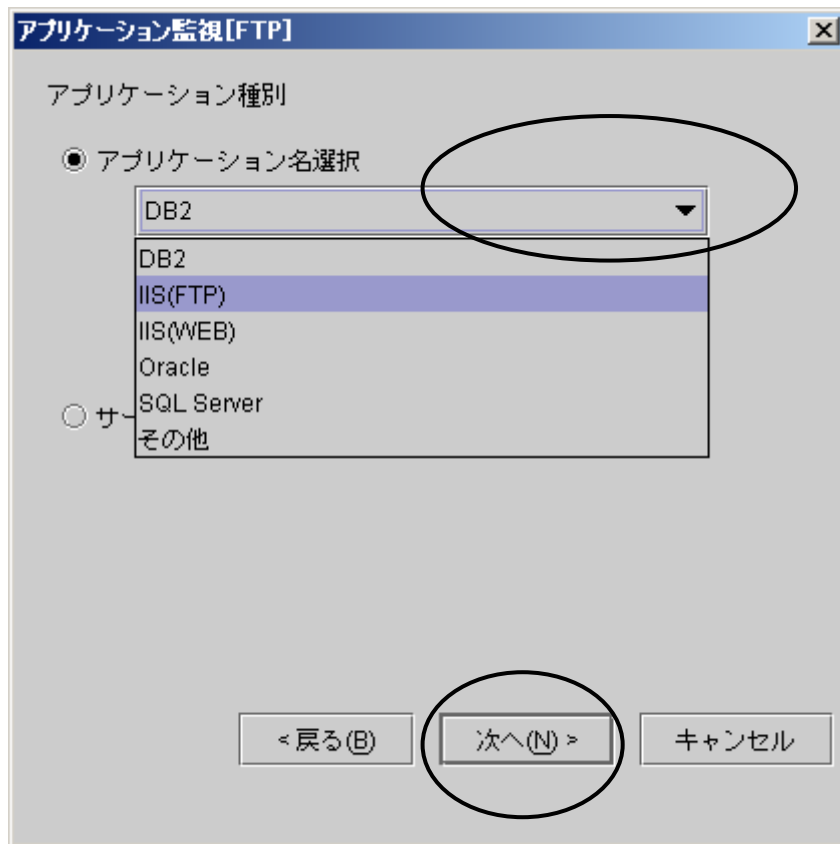
☒ アプリケーション名選択

DB2

☐ サービス

< 戻る (B) 次へ (N) > キャンセル

アプリケーション名の下向き三角を選択すると以下のような画面が表示されます。
IIS(FTP)を選択して、[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。



*アプリケーション名選択

アプリケーションの監視を選択します。監視したいアプリケーション名がリスト中にあれば選択します。リスト中がない場合は、「その他」を選択します。

*サービス

サービスの監視を行う場合に選択します。

アプリケーション名選択で、アプリケーション名を選択すると、特定アプリケーションの監視の設定になります。

アプリケーション名選択で、「その他」を選択すると、一般実行ファイルの監視の設定になります。

サービスを選択すると、サービスの監視の設定になります。

5.6.3 FTP監視

アプリケーション名選択で、「IIS(FTP)」を選択すると、FTP監視の設定画面が表示されます。

[完了(F)]ボタンをクリックしてください。

FTP[FTP]

FTPサービス MSFtpsvc

サービスの起動完了待ち

☐ する 待ち時間 0 秒

☒ しない

リブート前の復旧動作 グループ再起動

リトライ回数 3 回

リトライ回数初期化時間 0 時間

<戻る(B) 完了(F) キャンセル

5.7 監視の設定(WEB監視)

5.7.1 監視種別の選択

タイトルビューの[監視設定(A)]ボタンをクリックすると、監視設定画面が表示されます。

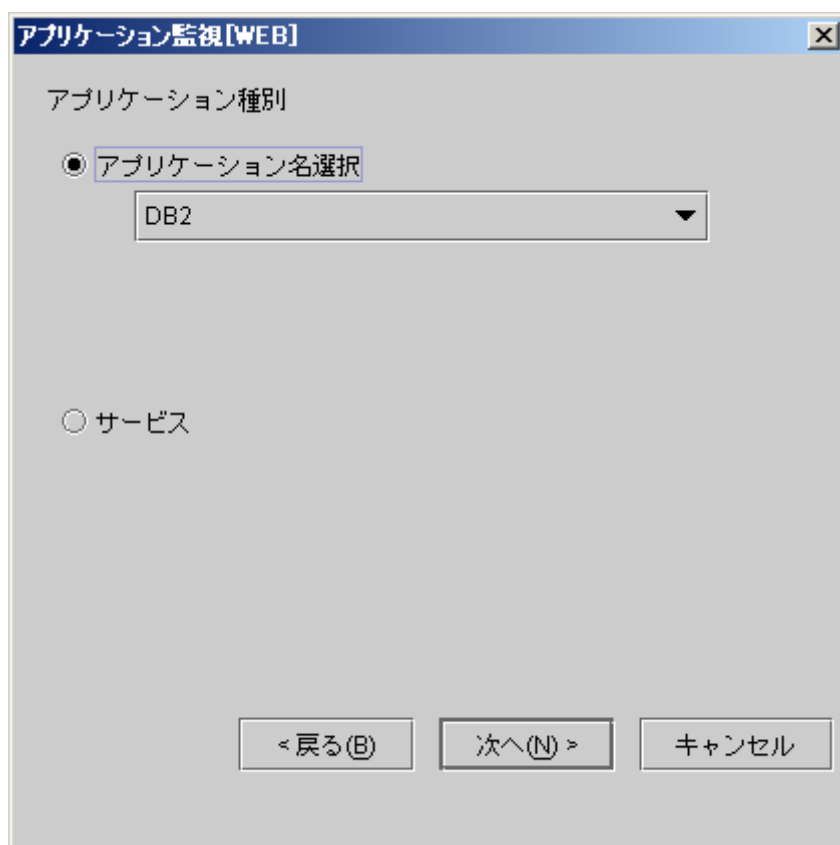
監視名を入力して、監視種別:アプリケーションを選択してください。

[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "監視設定" (Monitoring Settings). It has a close button (X) in the top right corner. The "監視名" (Monitoring Name) field contains the text "WEB". Below this, the "監視種別" (Monitoring Type) section is divided into two columns: "ソフトウェア" (Software) and "ハードウェア" (Hardware). Under "ソフトウェア", the "アプリケーション" (Application) radio button is selected, while "カスタム設定" (Custom Settings) and "OS" are unselected. Under "ハードウェア", the "ディスク" (Disk), "IPアドレス" (IP Address), and "LANポート" (LAN Port) radio buttons are unselected. At the bottom of the dialog, there are three buttons: "< 戻る(B)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル" (Cancel). The "次へ(N) >" button is circled with a black line.

5.7.2 アプリケーション監視

監視設定の画面の監視種別で「アプリケーション」を選択した場合、以下の画面が表示されます。



アプリケーション監視[WEB]

アプリケーション種別

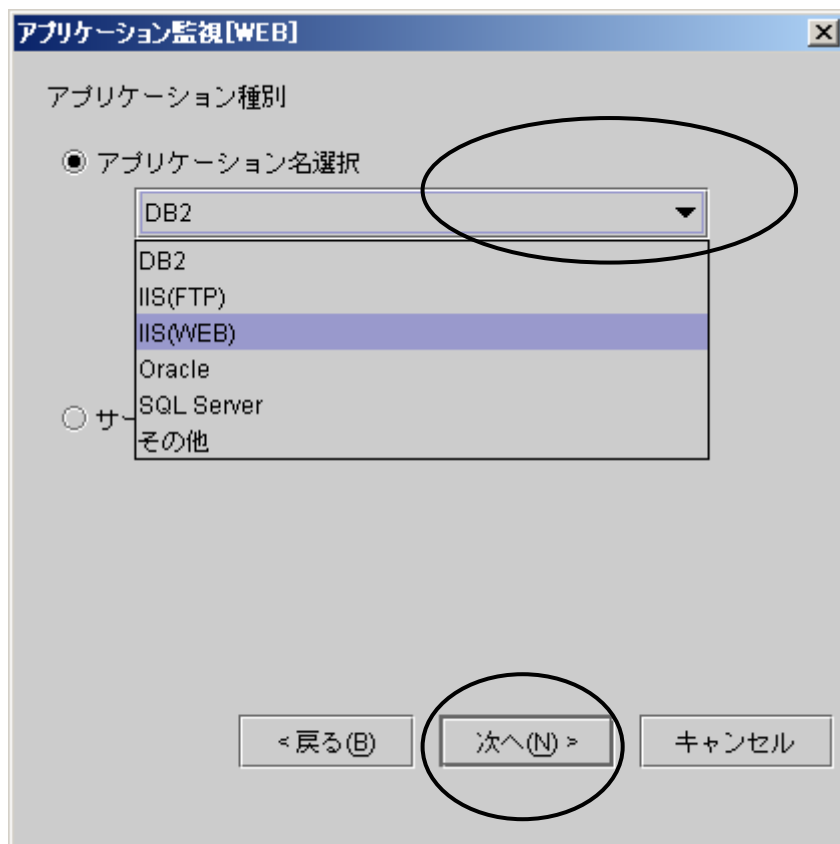
☒ アプリケーション名選択

DB2

☐ サービス

< 戻る (B) 次へ (N) > キャンセル

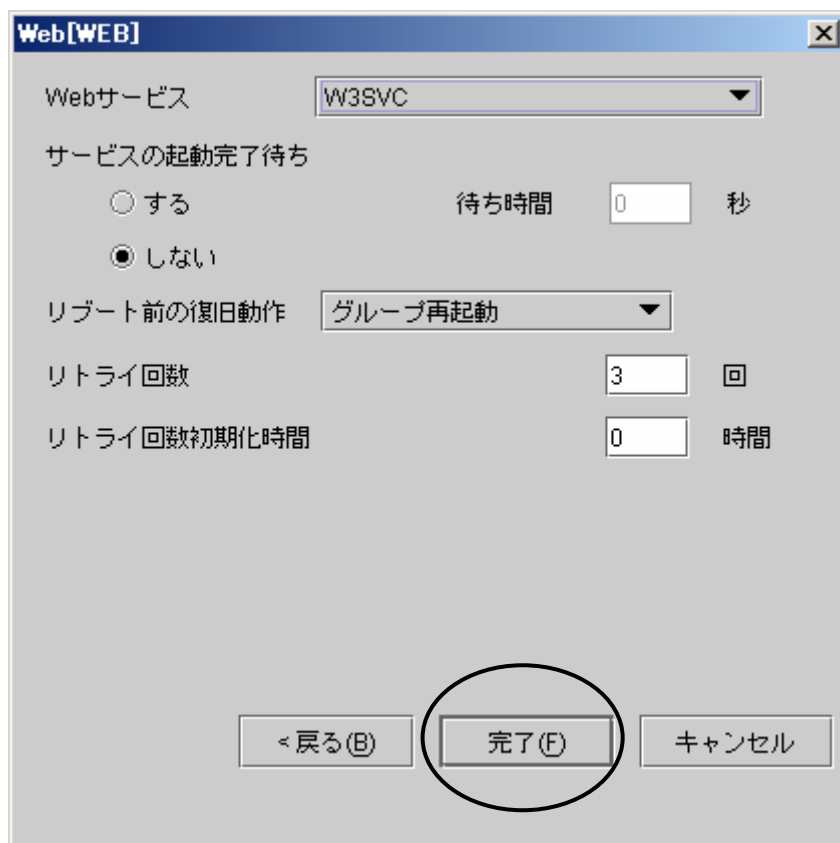
アプリケーション名の下向き三角を指定すると以下のような画面が表示されます。
IIS(WEB)を選択して、[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。



5.7.3 WEB監視

アプリケーション名選択で、「IIS(WEB)」を選択すると、WEB監視の設定画面が表示されます。

[完了(F)]ボタンをクリックしてください。



Web[WEB]

Webサービス W3SVC

サービスの起動完了待ち

☐ する 待ち時間 0 秒

☒ しない

リブート前の復旧動作 グループ再起動

リトライ回数 3 回

リトライ回数初期化時間 0 時間

<戻る(B) 完了(F) キャンセル



WEBサービスは、初期状態でWindowsのサービス回復処理が指定されているため、サービス名選択のリストは、空白になっています。CLUSTERPRO SSSにおいて障害制御を行いたい場合は、[スタート]→[管理ツール]→[サービス]を実行し、” World Wide Web Publishing Service”をダブルクリックしてください。

サービスの回復処理を”何もしない”に設定してください。

(ローカル コンピュータ) World Wide Web Publishing Service のプロパティ

全般 ログオン 回復 依存関係

このサービスがエラーになった場合のコンピュータの応答を指定してください。

最初のエラー(E): **何もしない**

次のエラー(S): 何もしない

その後のエラー(U): 何もしない

エラー カウントのリセット(Q): 1 日後に行う

サービスの再起動(V): 1 分後に行う

プログラムの実行

プログラム(P): 参照(R)...

コマンド ラインのパラメータ(O):

☐ コマンドラインにエラー カウントのオプションを追加 (/fail=%1%) (E)

コンピュータの再起動のオプション(R)...

OK キャンセル 適用(A)

5.8 監視の設定をした後に

監視の設定を行なった後に、監視を開始するには以下の方法があります。

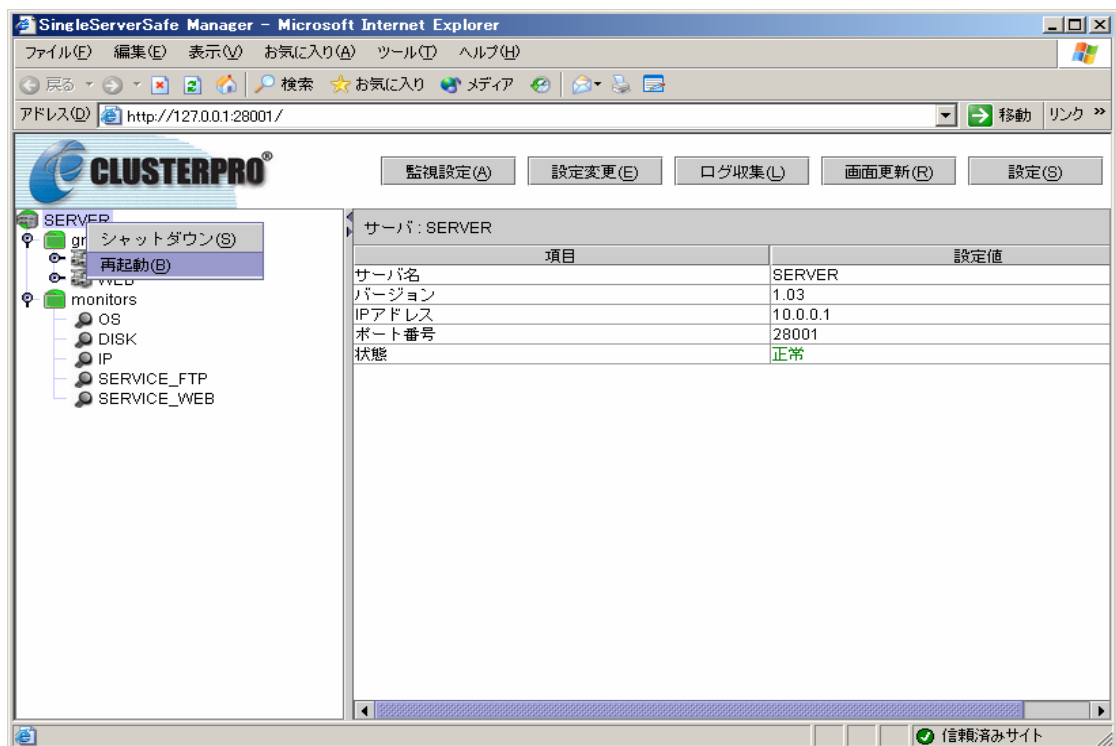
- ・ サーバを再起動してリソースの監視を開始する
- ・ CLUSTERPRO SSSマネージャを使用して手動でリソースの監視を開始する

5.8.1 サーバを再起動する

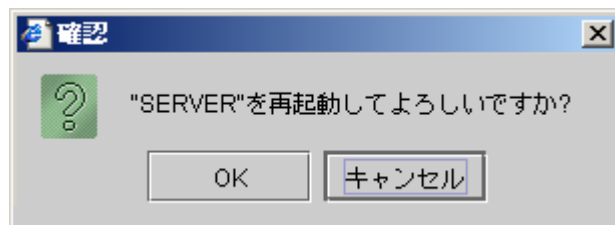
サーバを再起動する場合は、サーバ再起動時に、すべてのリソースが監視を開始します。

サーバを再起動する手順は、CLUSTERPRO SSSマネージャのツリービューでサーバを右クリックしてください。

[再起動(B)]をクリックしてください。

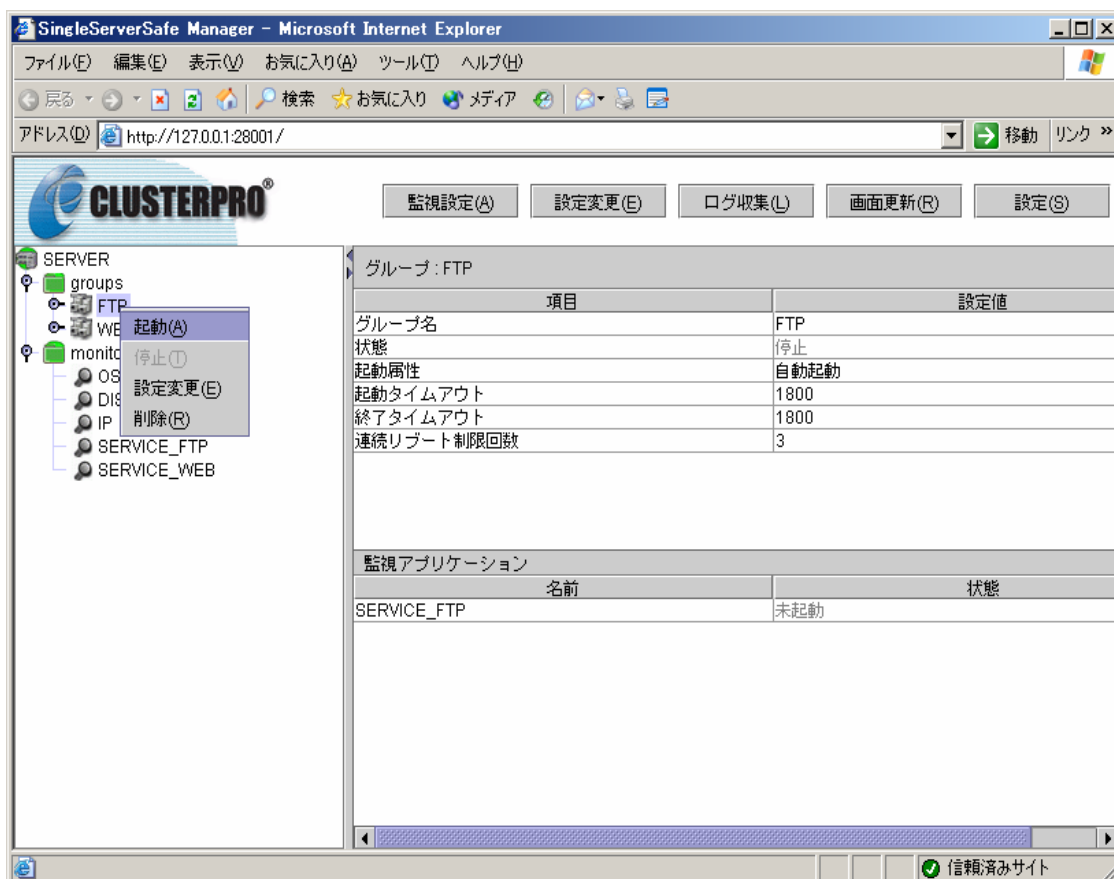


[再起動(B)]をクリックすると、確認画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックしてください。サーバの再起動が実行されます。



5.8.2 手動で監視を開始する

CLUSTERPRO SSSマネージャを使用して手動でリソースの監視を開始する場合は、CLUSTERPRO SSSマネージャの画面で監視リソースを一つずつ右クリックをして[監視の開始(C)]をクリックしてください。



確認画面が表示されますので[OK]ボタンをクリックしてください。
[OK]ボタンをクリックすると、監視が開始されます。



5.9 監視を開始した後に

監視リソースが正常に監視されている画面を以下に示します。

全ての監視リソースが正常に監視されている場合、ツリービュー(画面右側)のアイコンが全て緑色で表示されます。

